

糖尿病重症化予防における対象患者に関する実態調査
—2022 年度の診療報酬改定前後の比較—
報告書

令和 7 年 6 月 1 日

一般社団法人 日本糖尿病理学療法学会
研究推進委員会／下肢慢性創傷の研究・啓発部会



目次

要旨	3
研究者	4
研究協力施設	5
実施内容	6
倫理的配慮	7
調査資金について	8
診療科について	9
診療報酬区分について	11
入院理由について	12
入院時における再入院について	14
患者の基本情報について	17
糖尿病関連の合併症について	22
併存疾患について	25
生化学データについて	29
主たる創傷治療領域の再発について	30
創傷形成について	32
切断について	38
皮膚の状態について	40
足部の変形について	42
超音波による診断について	43
血行動態について	45
薬物療法について	47
入院時の治療について	51
下肢の筋力（入院時）について	55
身体機能評価および ADL 評価（入院時）について	56
理学療法の内容について	60
身体機能評価および ADL 評価（退院時）について	64
治療の転帰について	67
退院先について	68
入院期間について	69
退院後の再入院について	73

要旨

2022 年 4 月「糖尿病足病変」が運動器リハビリテーション（リハ）料の対象疾患名に追加され、対象者は拡大した。そこで、診療報酬改定前後で PT が対象者とした症例について実態調査を行った。

診療記録を参照し後方視的に調査を行い、協力施設 11 施設の 303 症例を診療報酬改定前後に分けて比較分析を行った。調査項目は、診療、基本情報、創傷、下肢切断、ADL、歩行能力、治療、理学療法の内容、入退院および転帰に関する項目とした。

診療報酬改定前は 138 例、診療報酬改定後は 165 例であった。診療報酬算定区分の内訳は診療報酬改定前後で有意な変化がみられ、運動器リハビリテーションは 20.3%から 52.1%に増加し、心大血管は 58.0%から 33.3%、廃用症候群は 18.8%から 10.9%に減少した。また、主診療科については有意な変化がみられ、形成外科は 15.2%から 37.6%に増加し、血管外科は 29.0%から 13.3%に減少した。

Keyword 診療報酬改定, 糖尿病足病変, 運動器リハビリテーション料

研究者

愛知淑徳大学 健康医療科学部 医療貢献学科 理学療法学専攻
林 久恵 Hisae Hayashi

国際医療福祉大学 成田保健医療学部 理学療法学科
河野 健一 Kenichi Kono

新潟リハビリテーション大学 医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻
木村 和樹 Kazuki Kimura

大分岡病院 リハビリテーション部
今岡 信介 Shinsuke Imaoka

東京医科大学茨城医療センター リハビリテーション療法部
大関 直也 Naoya Oseki

東都大学 幕張ヒューマンケア学部 理学療法学科
河辺 信秀 Nobuhide Kawabe

研究協力施設

以下の 11 施設の理学療法士にご協力いただき、本研究の調査を実施した。

学校法人東京医科大学 東京医科大学茨城医療センター

医療法人誠潤会 水戸病院

社会医療法人敬和会 大分岡病院

医療法人鉄友会 宇野病院

市立函館病院

地方独立行政法人 徳島県鳴門病院

医療法人社団 みどりの会 酒井病院

医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院

医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院

医療法人社団協友会 柏厚生総合病院

医療法人偕行会 名古屋共立病院

また、データ収集の委託を株式会社 PREVENT へ依頼した。

実施内容

本研究は、診療記録を参照した後方視的に調査した retrospective study である。2022 年 4 月 1 日に診療報酬改定がなされた。診療報酬改定の前後の 1 年間ずつを調査対象期間とした。調査対象の施設は、事前に研究協力が得られた 11 施設とし、WEB によるデータ入力、あるいは Excel にて、2024 年 3 月 6 日～6 月 31 日にデータを回収した。

取り込み基準は、糖尿病足病変の治療目的で入院診療を受けた患者とし、除外基準は、入院の理由に創傷治療、下肢虚血の治療、下肢切断を含まず、かつ、治療内容として保存的加療、血行再建、創傷治療、小切断、予防的手術の 4 つがすべてなしまたは確認不可の症例とした。分析対象となったのは全 303 例であり、内訳は診療報酬改定前が 138 例、診療報酬改定後が 165 例であった。

アンケートの質問項目は、診療科、入院理由、入院時における再入院、患者の基本情報、糖尿病関連の合併症、併存疾患、主たる創傷治療領域の再発、創傷形成、切断、皮膚の状態、足部の変形、診療報酬区分、生化学データ、超音波による診断、血行動態、薬物療法、入院時の治療、下肢の筋力、身体機能評価および ADL 評価（入院時）理学療法の内容、身体機能評価および ADL 評価（退院時）、治療の転帰、退院先、入院期間、退院後の再入院についてとした。

診療報酬改定前と診療報酬改定後に群分けを行い、全ての設問について記述統計および単純集計を行った。群間比較は、連続変数については T 検定または Mann-Whitney 検定、名義変数については χ^2 検定および残差分析を用いて行った。統計ソフトは SPSS を用いて、有意水準は 5%とした。

倫理的配慮

本研究は、愛知淑徳大学健康医療科学部倫理委員会の承認（承認番号 2023-3 号）を得て実施した。

調査資金について

本研究は、JSPS 科研費 JP23K10415，愛知淑徳大学 2023 年度研究助成 23TT19 の助成を受けて実施した。

診療科について

Q 主治医診療科

血管外科,循環器内科,形成外科,整形外科,糖尿病内科,その他

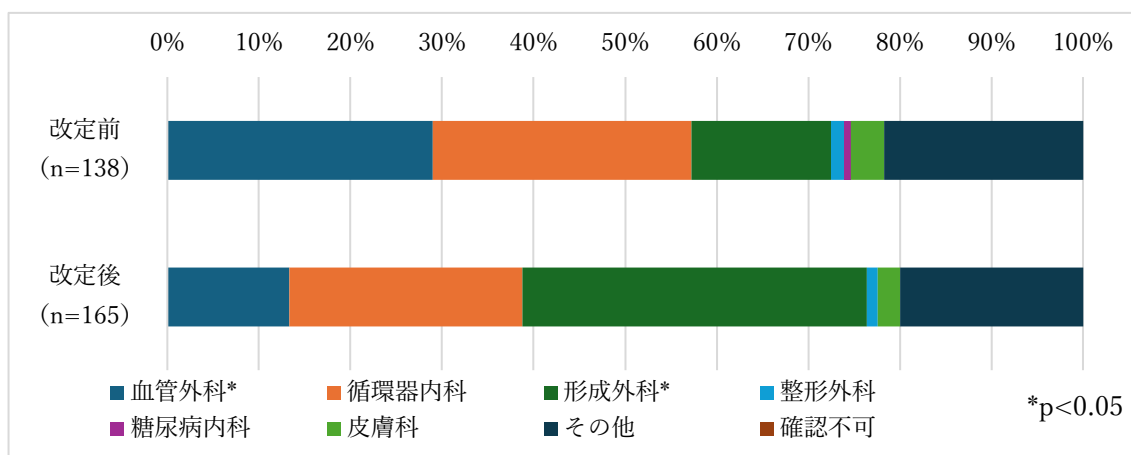


図 1. 主治医診療科について

表 1. 主治医診療科について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
血管外科*	40	29.0%	22	13.3%
循環器内科	39	28.3%	42	25.5%
形成外科*	21	15.2%	62	37.6%
整形外科	2	1.4%	2	1.2%
糖尿病内科	1	0.7%	0	0.0%
皮膚科	5	3.6%	4	2.4%
その他	30	21.7%	33	20.0%
確認不可	0	0.0%	0	0.0%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の主治医診療科は、形成外科が増加、血管外科が減少した。

Q 主治医診療科
その他

表 2. その他の主治医診療科について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
外科	26	18.8%	26	15.8%
心臓血管外科	2	1.4%	5	3.0%
透析科	1	0.7%	0	0.0%
腎臓内科	0	0.0%	1	0.6%
リハビリテーション科	0	0.0%	1	0.6%
その他	1	0.7%	0	0.0%

改定前後におけるその他の主治医診療科の単純集計を示す.

診療報酬区分について

Q 診療報酬区分

非算定,運動器,心大血管,廃用症候群,脳血管疾患,不明

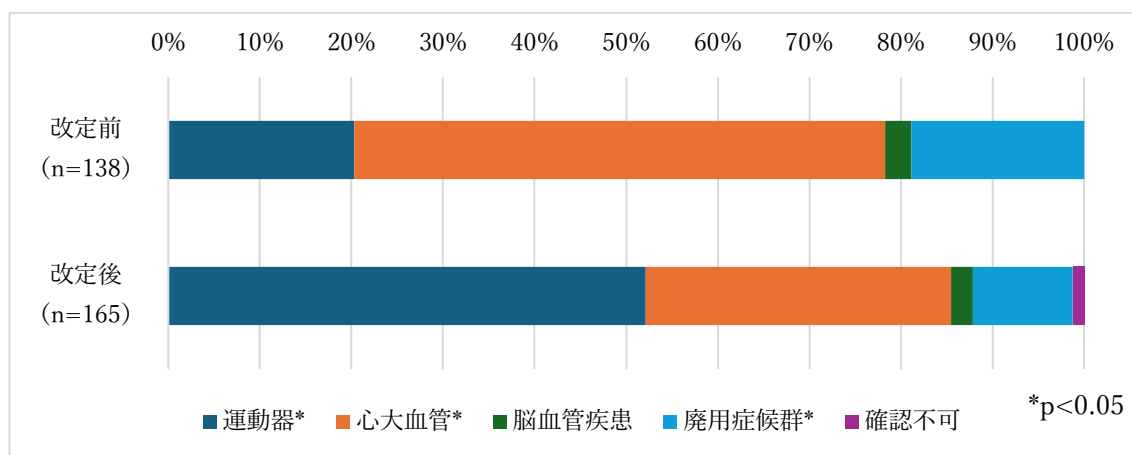


図 2. 診療報酬区分について

表 3. 診療報酬区分について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
運動器*	28	20.3%	86	52.1%
心大血管*	80	58.0%	55	33.3%
脳血管疾患	4	2.9%	4	2.4%
廃用症候群*	26	18.8%	18	10.9%
確認不可	0	0.0%	2	1.2%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の診療報酬算定区分は、運動器が増加、心大血管、廃用症候群が減少した。

入院理由について

Q 入院の理由【複数回答可】

創傷治療, 下肢虚血の治療, 下肢切断, 社会的理由, 経済的理由, 確認不可, その他

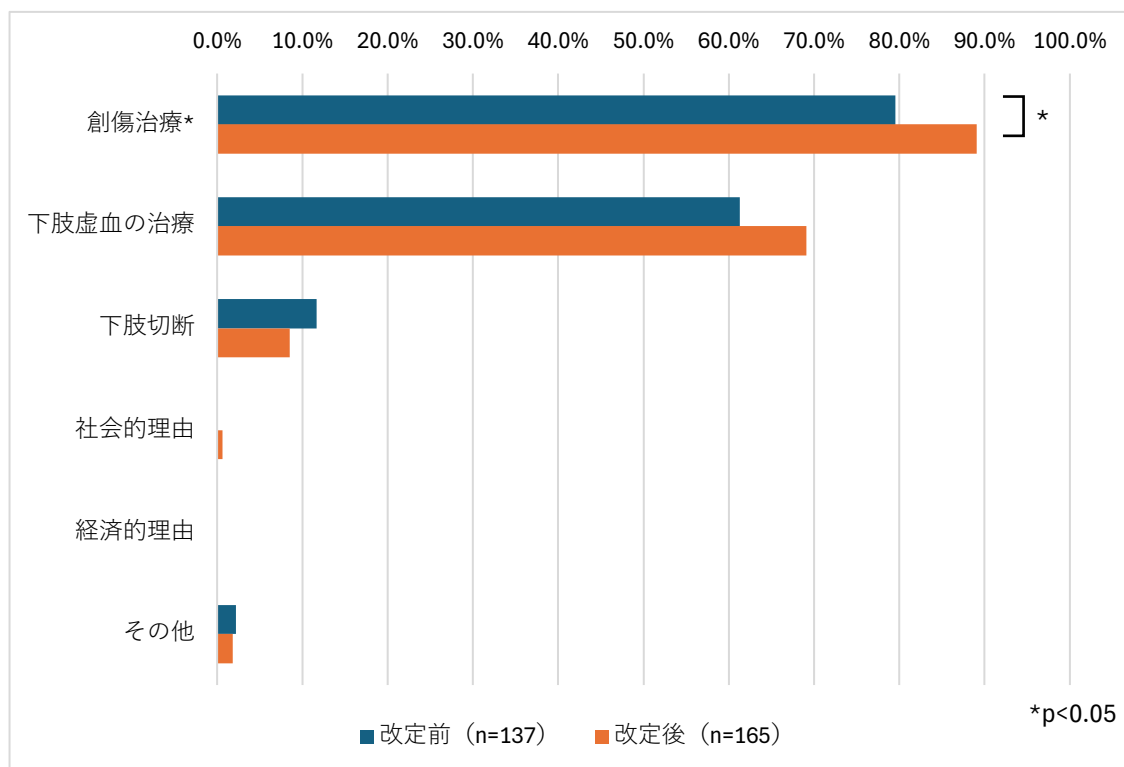


図 3. 入院の理由について

表 4. 入院の理由について

	改定前 (n=138)			改定後 (n=165)		
	n	/ 回答数	%	n	/ 回答数	%
創傷治療*	109	/ 137	79.6%	147	/ 165	89.1%
下肢虚血の治療	84	/ 137	61.3%	114	/ 165	69.1%
下肢切断	16	/ 137	11.7%	14	/ 165	8.5%
社会的理由	0	/ 137	0.0%	1	/ 165	0.6%
経済的理由	0	/ 137	0.0%	0	/ 165	0.0%
その他	3	/ 137	2.2%	3	/ 165	1.8%

* p<0.05 改定前後を比較, 複数回答可

改定前と比較して改定後の入院の理由は, 創傷治療が増加した。

表 5. その他の入院の理由について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
骨折	0 / 137	0.0%	1 / 165	0.6%
血糖コントロール	1 / 137	0.7%	0 / 165	0.0%
血糖コントロール, 腎不全	1 / 137	0.7%	0 / 165	0.0%
仙骨, 右踵部褥創	0 / 137	0.0%	1 / 165	0.6%
貧血, 食欲不振	1 / 137	0.7%	0 / 165	0.0%
蜂窩織炎	0 / 137	0.0%	1 / 165	0.6%

改定前後におけるその他の入院の理由の単純集計を示す.

1 症例に複数併存疾患あるものは, 分けずにそのまま記載.

入院時における再入院について

Q 初回 or 再入院か
初回入院,再入院,確認不可

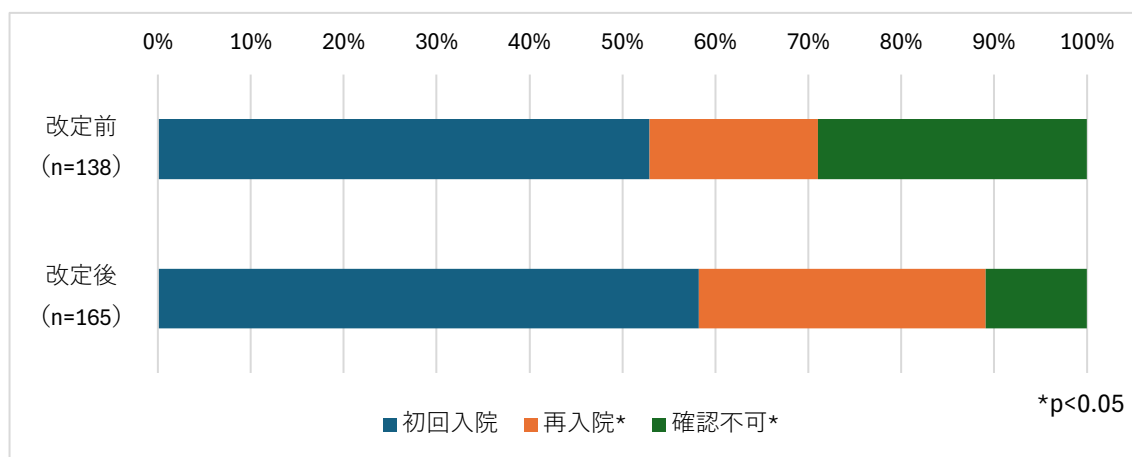


図 4. 入院時の再入院の有無について

表 6. 入院時の再入院の有無について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
初回入院	73	52.9%	96	58.2%
再入院*	25	18.1%	51	30.9%
確認不可*	40	29.0%	18	10.9%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の今回の入院は，再入院が増加，確認不可が減少した。

Q 再入院の場合は前回の入院日数

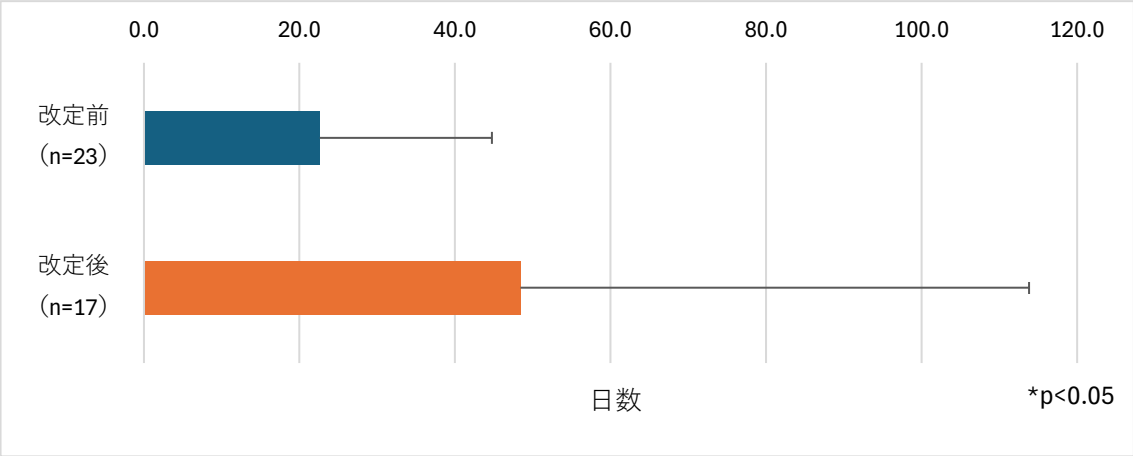


図 5. 再入院の場合は前回の入院日数について

表 7. 再入院の場合は前回の入院日数について

	改定前 (n=138)				改定後 (n=165)			
	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
再入院の場合は前回の入院日数	23	22.6	±	22.1	17	48.4	±	65.4

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 前回退院から今回入院までの日数

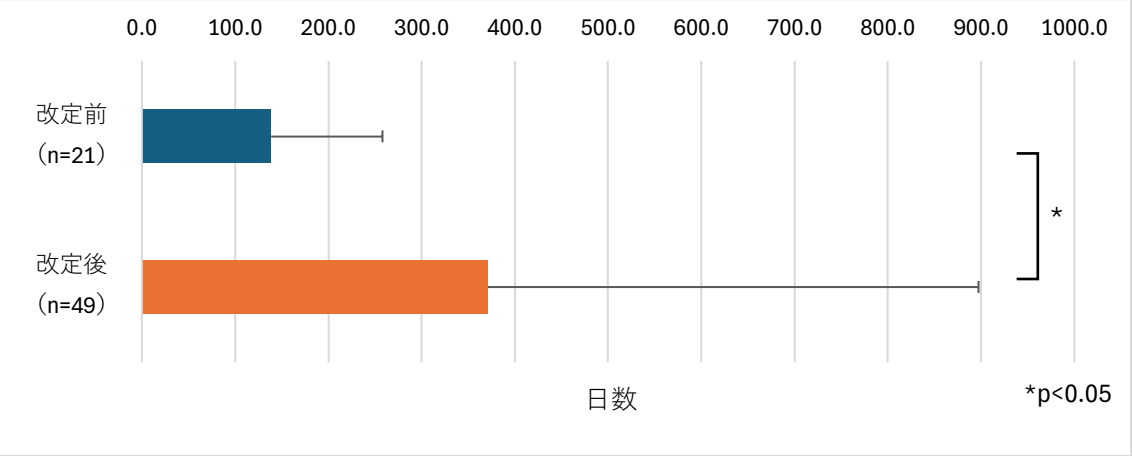


図 6. 前回退院から今回入院までの日数について

表 8. 前回退院から今回入院までの日数について

	改定前 (n=138)				改定後 (n=165)			
	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
前回退院から今回入院までの日数*	20	145.6	±	118.1	45	398.7	±	540.4

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の前回退院から今回入院までの日数は、延長した。

患者の基本情報について

Q 患者 年齢（歳） ※数字（半角）のみで入力
Q 患者 性別 男性,女性,その他
Q 身長 入院時（cm） 身長を数字（半角数字）のみ入力
Q 体重 入院時（kg） 体重を数字（半角数字）のみ入力

表 9. 患者の基礎情報について

	改定前（n=138）				改定後（n=165）			
	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
性別（女性/男性）	138	(48/90)			165	(61/104)		
年齢（歳）	138	70.9	±	13.6	165	71.6	±	12.7
身長（cm）	138	160.7	±	15.4	164	160.4	±	10.5
体重（kg）	138	60.9	±	16.4	162	58.3	±	14.7

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 就業の有無
有り,無し,確認不可

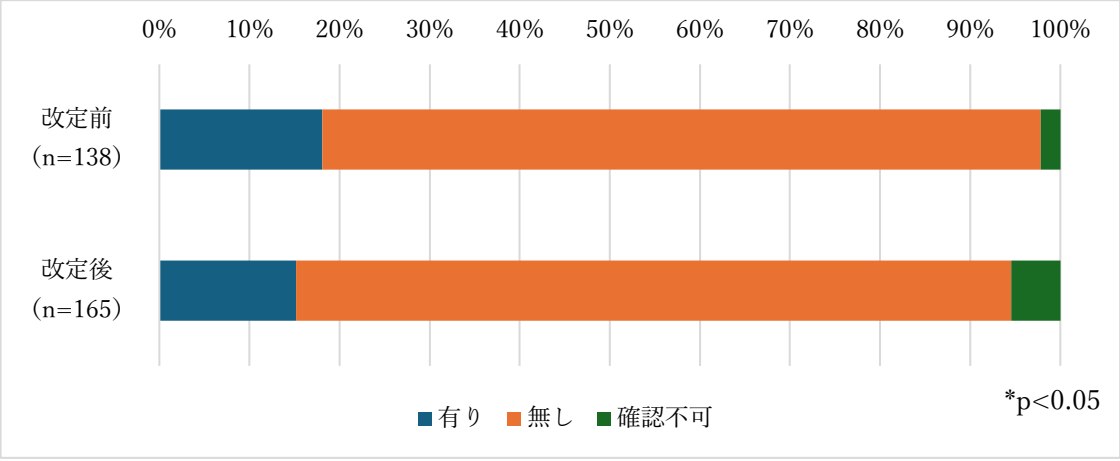


図 7. 就業の有無について

表 10. 就業の有無について

就業の有無	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
有り	25	18.1%	25	15.2%
無し	110	79.7%	131	79.4%
確認不可	3	2.2%	9	5.5%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 介護保険の利用
要支援,要介護,なし,確認不可

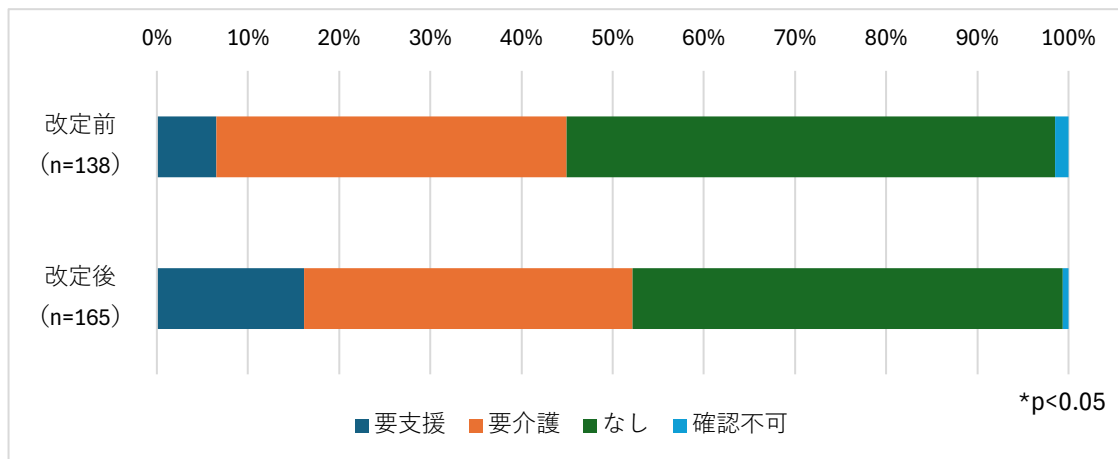


図 8. 介護保険の利用について

表 11. 介護保険の利用について

介護保険の利用	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
要支援	9	6.5%	26	15.8%
要介護	53	38.4%	58	35.2%
なし	74	53.6%	79	47.9%
確認不可	2	1.4%	2	1.2%

* $p<0.05$ 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 認知機能障害

認知機能障害, MCI, なし, 確認不可

※軽度認知障害 (MCI : Mild Cognitive Impairment)

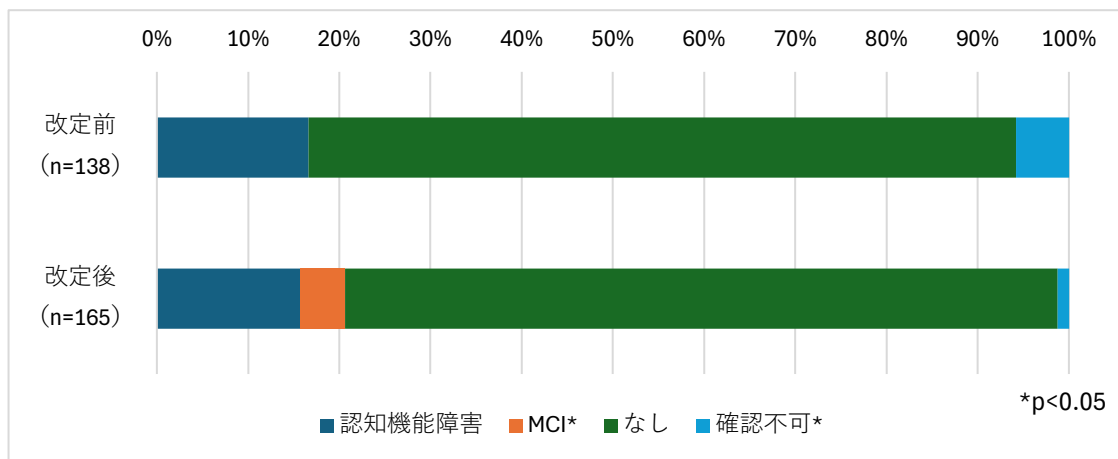


図 9. 認知機能障害について

表 12. 認知機能障害について

認知機能障害	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
認知機能障害 (MCI は含まない)	23	16.7%	26	15.8%
MCI*	0	0.0%	8	4.8%
なし	107	77.5%	129	78.2%
確認不可*	8	5.8%	2	1.2%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の認知機能障害は、MCI が増加、確認不可が減少した。

Q 喫煙習慣

あり,なし,確認不可

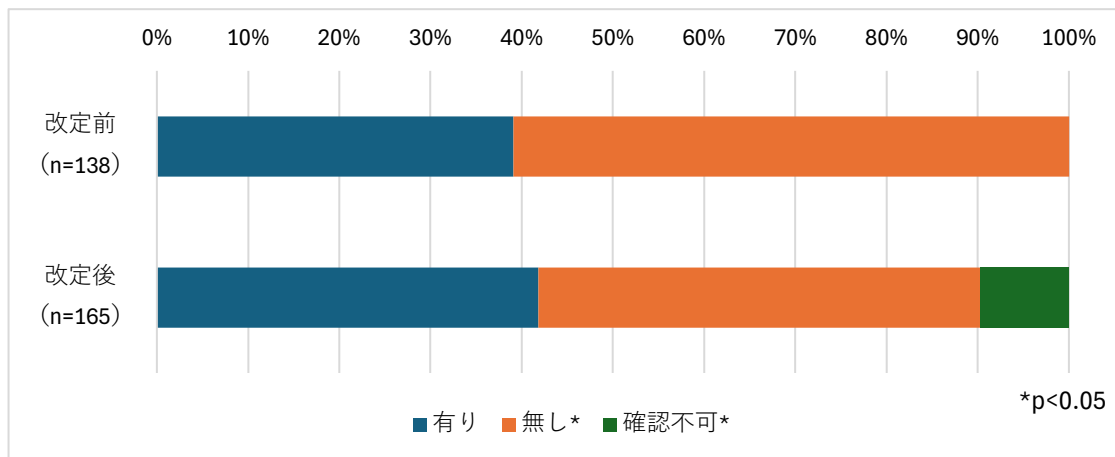


図 10. 喫煙習慣について

表 13. 喫煙習慣について

喫煙習慣	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
有り	54	39.1%	69	41.8%
無し*	84	60.9%	80	48.5%
確認不可*	0	0.0%	16	9.7%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の喫煙習慣は、無しが減少、確認不可が増加した。

糖尿病関連の合併症について

Q 糖尿病の有無
あり,なし,確認不可
Q 糖尿病合併症 網膜症
あり,なし,確認不可
Q 糖尿病合併症 腎症
あり,なし,確認不可
Q 透析の有無
あり,なし,確認不可
Q 糖尿病合併症 神経障害
あり,なし,確認不可

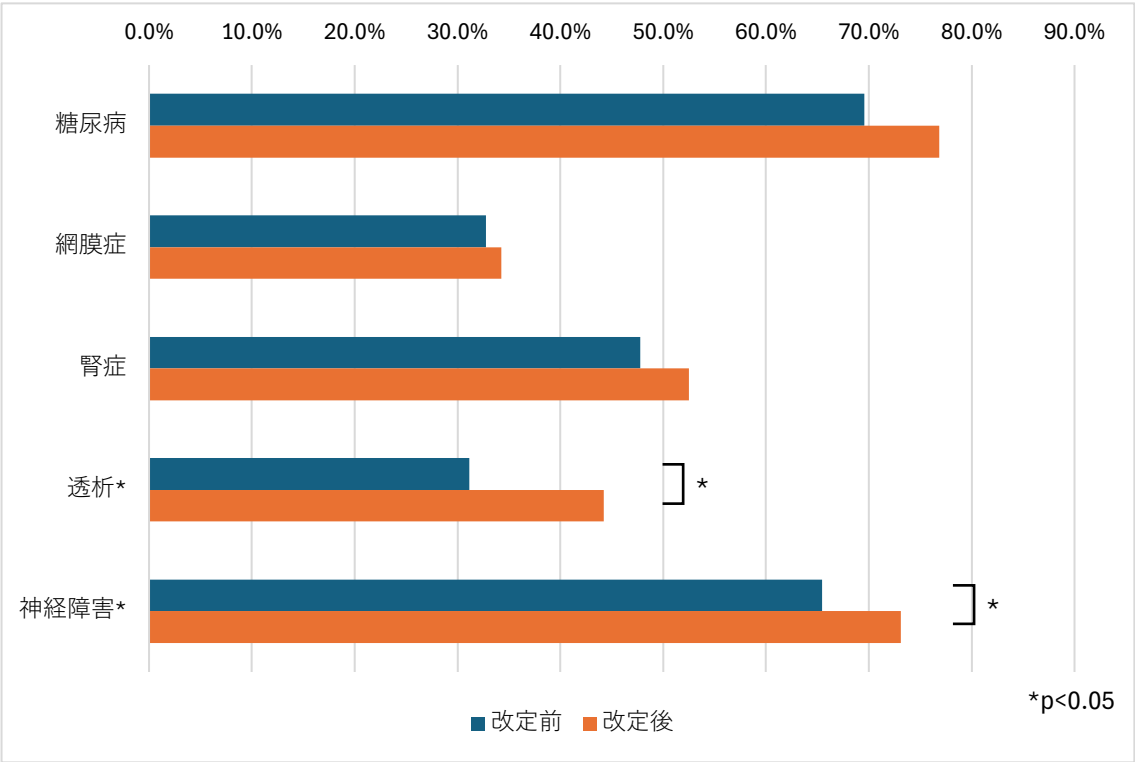


図 11. 糖尿病関連の合併症について
改定前，改定後の回答数は表 14 を参照

表 14. 糖尿病関連の合併症について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
糖尿病	96 / 138	69.6%	126 / 164	76.8%
網膜症	38 / 116	32.8%	48 / 140	34.3%
腎症	64 / 134	47.8%	83 / 158	52.5%
透析*	43 / 138	31.2%	73 / 165	44.2%
神経障害*	55 / 84	65.5%	106 / 145	73.1%

* $p<0.05$ 改定前後を比較, 複数回答可

改定前と比較して改定後の糖尿病関連の合併症は, 透析と神経障害が増加した.

Q 糖尿病罹患期間（年）
数字（半角）のみ記入

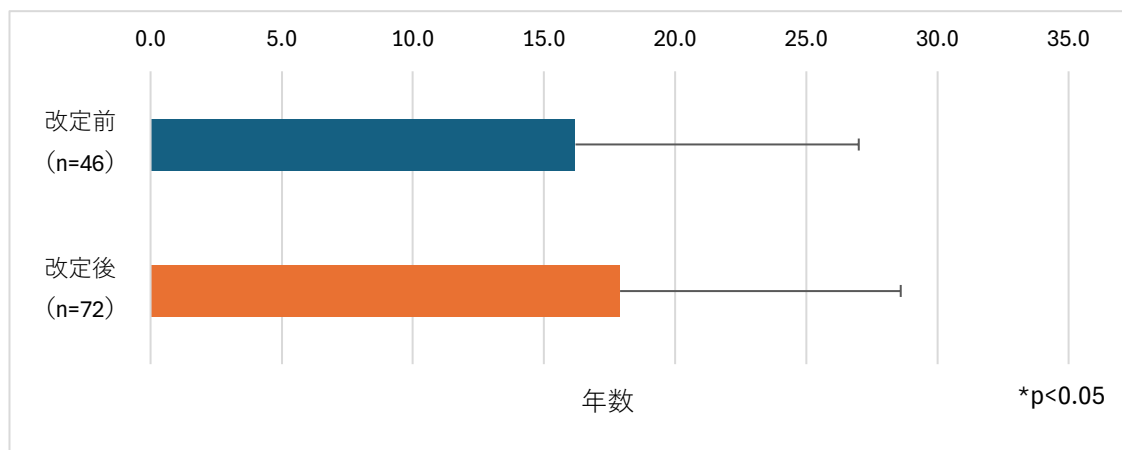


図 12. 糖尿病罹病期間について

表 15. 糖尿病罹病期間について

		改定前（n=138）			改定後（n=165）		
	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	± SD
糖尿病罹病期間（年）	46	16.2	±	10.8	72	17.9	± 10.7

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

併存疾患について

Q 併存症 高血圧 あり,なし,確認不可
Q 併存症 脂質異常症 あり,なし,確認不可
Q 併存症 心疾患 あり,なし,確認不可
Q 併存症 CVA (CVA : cerebrovascular attack) あり,なし,確認不可
Q 併存症 LEAD (LEAD : lower extremity artery disease) あり,なし,確認不可

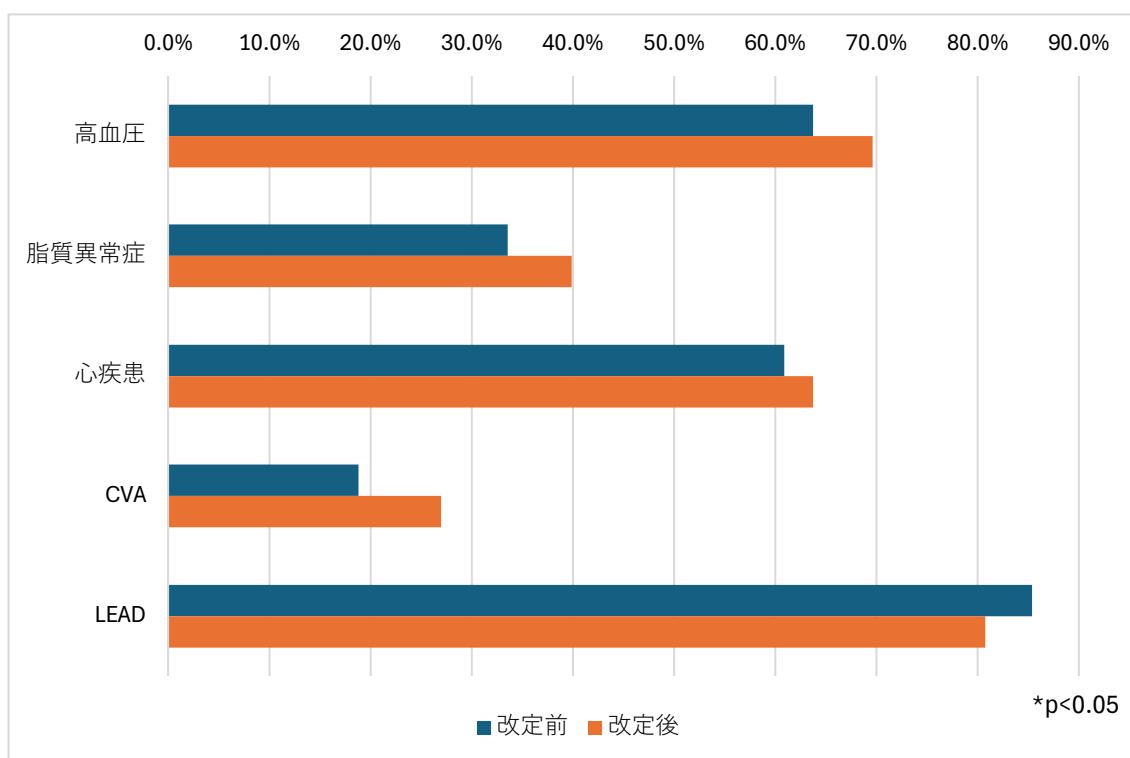


図 13. 併存疾患について
改定前，改定後の回答数は表 16 を参照

表 16. 併存疾患について

	改定前 (n=138)			改定後 (n=165)		
高血圧	88	/	138	63.8%	110	/ 158 69.6%
脂質異常症	46	/	137	33.6%	63	/ 158 39.9%
心疾患	84	/	138	60.9%	102	/ 160 63.8%
CVA	26	/	138	18.8%	44	/ 163 27.0%
LEAD	117	/	137	85.4%	130	/ 161 80.7%

* p<0.05 改定前後を比較，複数回答可

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q その他の併存症【任意】

※これまでに病名として付いていれば疾患名を記載

表 17. その他の併存疾患について

	改定前 (n=138)			改定後 (n=165)		
	n	/ 回答数	%	n	/ 回答数	%
その他の併存疾患なし	106	/ 138	76.8%	143	/ 161	88.8%
アトピー性皮膚炎, うっ帯性皮膚炎	0	/ 138	0.0%	1	/ 161	0.6%
アルコール依存症	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
アルツハイマー型認知症, てんかん	0	/ 138	0.0%	1	/ 161	0.6%
うっ帯性皮膚炎	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
うつ病	1	/ 138	0.7%	1	/ 161	0.6%
うつ病, 慢性胃潰瘍	0	/ 138	0.0%	1	/ 161	0.6%
レビー小体型認知症	0	/ 138	0.0%	1	/ 161	0.6%
壊死性筋膜炎	0	/ 138	0.0%	1	/ 161	0.6%
肝機能障害	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
急性呼吸不全	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
強皮症, シェーグレン症候群, 壊死性筋膜炎	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
頸部骨折術後	0	/ 138	0.0%	1	/ 161	0.6%
甲状腺機能低下症	1	/ 138	0.7%	1	/ 161	0.6%
高リン酸血症	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
高尿酸血症	4	/ 138	2.9%	0	/ 161	0.0%
左下葉肺がん	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
左大腿骨転子下骨折	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
弱視	0	/ 138	0.0%	1	/ 161	0.6%
重度 AS	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
新規脳梗塞	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
腎硬化症	0	/ 138	0.0%	1	/ 161	0.6%
脊髄損傷	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
脊柱管狭窄症	2	/ 138	1.4%	0	/ 161	0.0%
双極性障害	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
早期胃がん	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%
大腿骨骨折	0	/ 138	0.0%	1	/ 161	0.6%
大腸がんストマ	0	/ 138	0.0%	1	/ 161	0.6%
大動脈内血栓	1	/ 138	0.7%	0	/ 161	0.0%

統合失調症, 喘息, 鬱滞性皮膚炎	0 / 138	0.0%	1 / 161	0.6%
透析拒否	1 / 138	0.7%	0 / 161	0.0%
肺がん	1 / 138	0.7%	1 / 161	0.6%
弁置換術後	0 / 138	0.0%	1 / 161	0.6%
蜂窩織炎	1 / 138	0.7%	0 / 161	0.0%
慢性リンパ性白血病	0 / 138	0.0%	1 / 161	0.6%
慢性胃潰瘍	3 / 138	2.2%	4 / 161	2.5%
喘息, 肺気腫	0 / 138	0.0%	1 / 161	0.6%
鬱滞性潰瘍, 両下肢リンパ浮腫	1 / 138	0.7%	0 / 161	0.0%
膀胱がん	1 / 138	0.7%	0 / 161	0.0%
AS IV	1 / 138	0.7%	0 / 161	0.0%
CHF, CRT-P	1 / 138	0.7%	0 / 161	0.0%
CRT-P	0 / 138	0.0%	1 / 161	0.6%

改定前後におけるその他の併存症の単純集計を示す.

1 症例に複数併存疾患あるものは, 分けずにそのまま記載.

生化学データについて

Q BNP（原則入院時）（BNP：brain natriuretic peptide） ※原則 入院時の値を入力
Q CRP（原則入院時）（C-reactive protein） ※原則 入院時の値を入力
Q HbA1c（原則入院時）（HbA1c：hemoglobin A1c） ※原則 入院時の値を入力
Q Ht（原則入院時）（Ht：hematocrit） ※原則 入院時の値を入力
Q Hb（原則入院時）（Hb：hemoglobin） ※原則 入院時の値を入力
Q Alb（原則入院時）（Alb：albumin） ※原則 入院時の値を入力

表 18. 生化学データについて

	改定前（n=138）				改定後（n=165）			
	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
BNP(pg/ml)	49	453.1	±	759.5	53	347.7	±	565.3
CRP(mg/dl)	129	7.9	±	9.7	149	8.0	±	15.0
HbA1c(%)	102	6.8	±	1.9	109	7.2	±	2.1
Ht(%)	135	35.6	±	10.4	162	37.0	±	24.1
Hb(g/dl)	137	11.2	±	2.2	162	11.7	±	3.0
Alb(g/dl)	131	3.4	±	2.5	158	3.2	±	0.6

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

主たる創傷治療領域の再発について

Q 主たる創傷治療領域の再発歴

あり,なし,確認不可

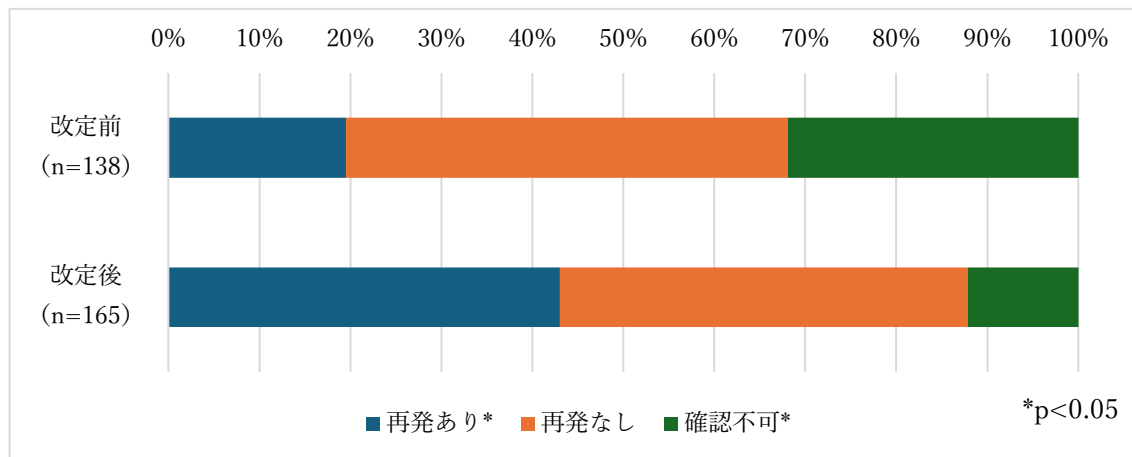


図 14. 主たる創傷治療領域の再発歴について

表 19. 主たる創傷治療領域の再発歴について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
再発あり*	27	19.6%	71	43.0%
再発なし	67	48.6%	74	44.8%
確認不可*	44	31.9%	20	12.1%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の主たる創傷治療領域の再発歴は、再発ありが増加、確認不可が減少した。

Q 再発の回数

※左右の区別はしない 回数,確認不可

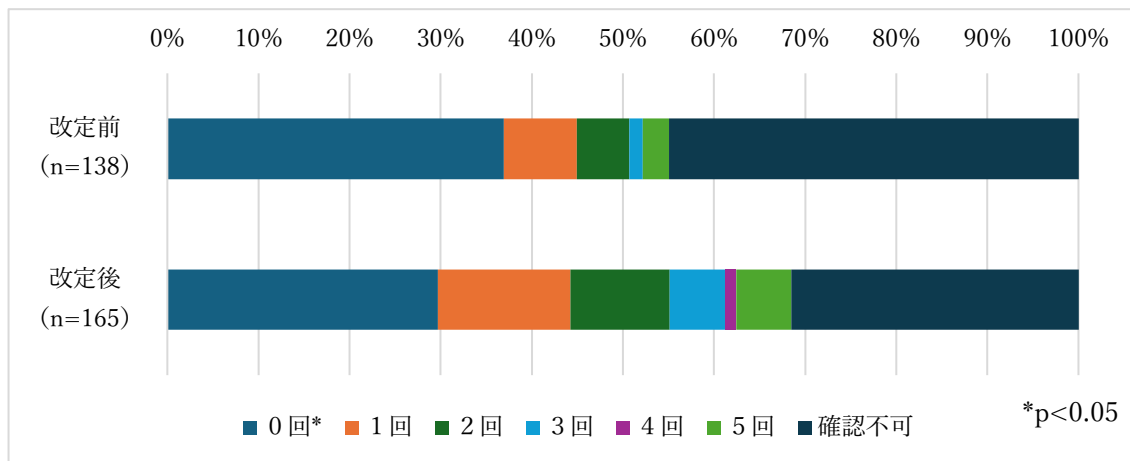


図 15. 再発の回数について

表 20. 再発の回数について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
0回*	51	37.0%	49	29.7%
1回	11	8.0%	24	14.5%
2回	8	5.8%	18	10.9%
3回	2	1.4%	10	6.1%
4回	0	0.0%	2	1.2%
5回	4	2.9%	10	6.1%
確認不可	62	44.9%	52	31.5%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の再発の回数は、0回が減少した。

創傷形成について

Q 創傷形成部位【複数回答可】

足趾,前足部(足趾以外),中足部,後足部,その他,確認不可

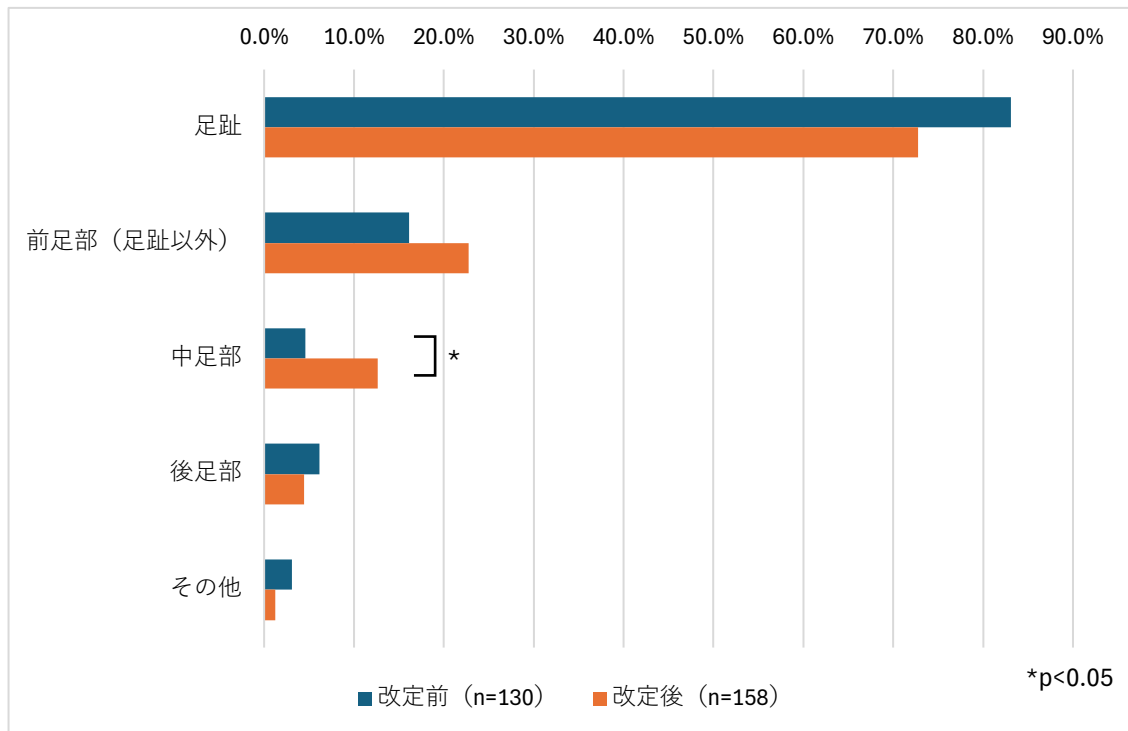


図 16. 創傷形成部位について

表 21. 創傷形成部位について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	回答数 / %	n	回答数 / %
足趾	108	130 / 83.1%	115	158 / 72.8%
前足部 (足趾以外)	21	130 / 16.2%	36	158 / 22.8%
中足部*	6	130 / 4.6%	20	158 / 12.7%
後足部	8	130 / 6.2%	8	158 / 4.4%
その他	4	130 / 3.1%	2	158 / 1.3%

* p<0.05 改定前後を比較, 複数回答可

改定前と比較して改定後の創傷形成部位は, 中足部が増加した。

表 22. その他の創傷形成部位について

創傷形成部位_その他	改定前 (n=138)				改定後 (n=165)			
	n	/	回答数	%	n	/	回答数	%
下腿 (外果付近)	1	/	130	0.8%	0	/	158	0.0%
外果	1	/	130	0.8%	0	/	158	0.0%
足背	0	/	130	0.0%	1	/	158	0.6%
踵	2	/	130	1.5%	1	/	158	0.6%

改定前後におけるその他の創傷形成部位の単純集計を示す.

Q 創傷形成側【複数回答可】

右,左,確認不可

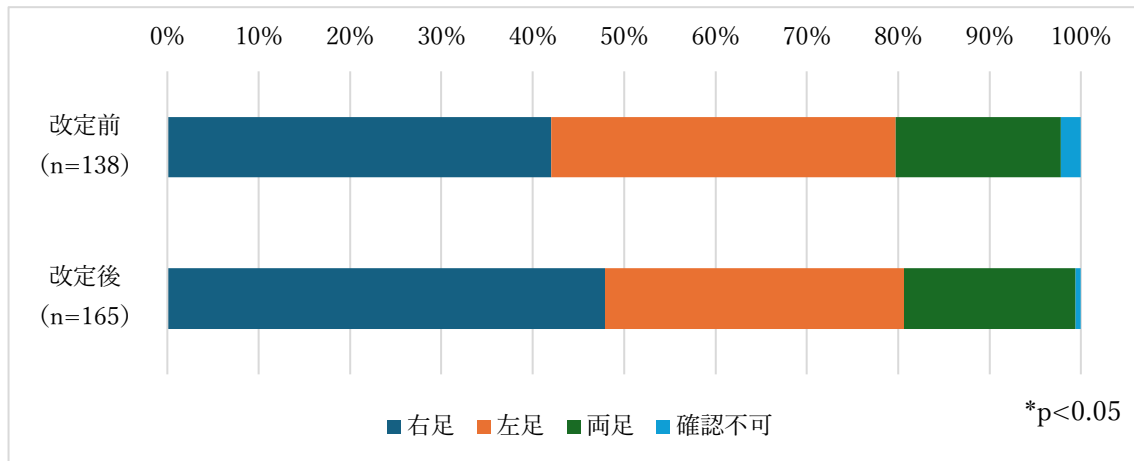


図 17. 創傷形成部位側について

表 23. 創傷形成部位側について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
右足	58	42.0%	79	47.9%
左足	52	37.7%	54	32.7%
両足	25	18.1%	31	18.8%
確認不可	3	2.2%	1	0.6%

* $p<0.05$ 改定前後を比較

※右と左の両方を選択した回答は両足とした。

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 創傷形成原因

虚血の進行,外傷（水泡の破綻含む）,不明

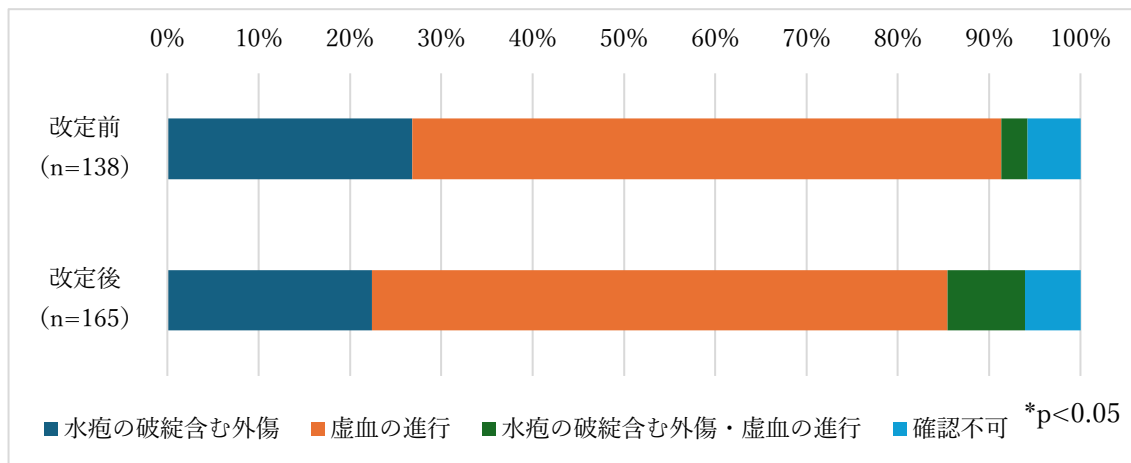


図 18. 創傷形成原因について

表 24. 創傷形成原因について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
水泡の破綻含む外傷	37	26.8%	37	22.4%
虚血の進行	89	64.5%	104	63.0%
水泡の破綻含む外傷・虚血の進行	4	2.9%	14	8.5%
確認不可	8	5.8%	10	6.1%

* $p<0.05$ 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 創傷の面積・深さ

創傷の面積・深さ W 0 ,W 1 ,W 2 ,W 3 ,確認不可

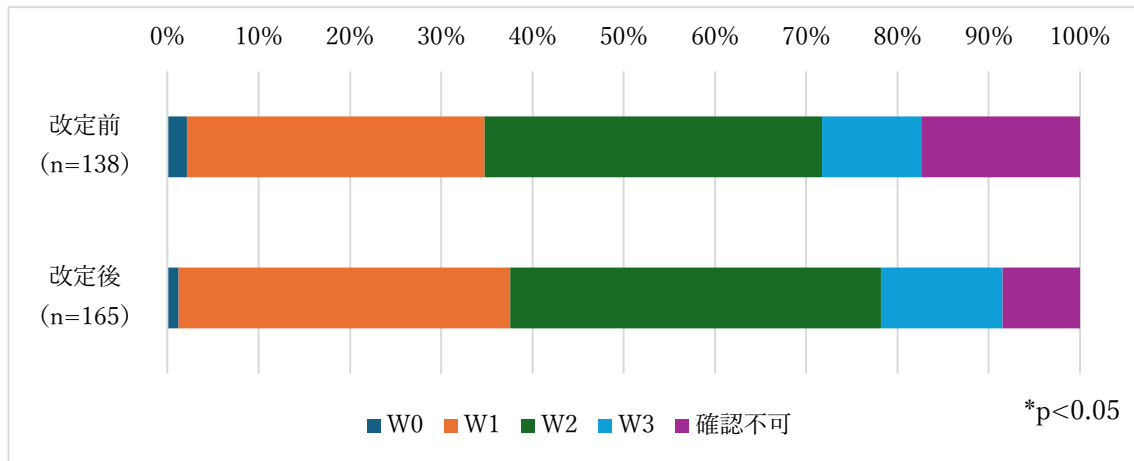


図 19. 創傷の面積・深さについて

表 25. 創傷の面積・深さについて

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
W0	3	2.2%	2	1.2%
W1	45	32.6%	60	36.4%
W2	51	37.0%	67	40.6%
W3	15	10.9%	22	13.3%
確認不可	24	17.4%	14	8.5%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 創傷の感染重症度

創傷の感染重症度 fl0,fl1, f I2, f I3,確認不可

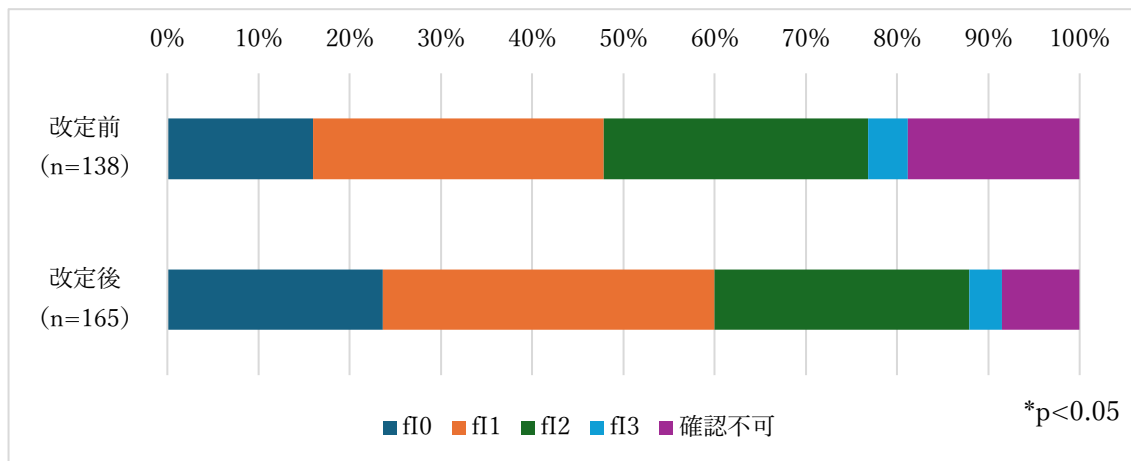


図 20. 創傷の感染重症度について

表 26. 創傷の感染重症度について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
fl0	22	15.9%	39	23.6%
fl1	44	31.9%	60	36.4%
fl2	40	29.0%	46	27.9%
fl3	6	4.3%	6	3.6%
確認不可	26	18.8%	14	8.5%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

切断について

Q 切断 大・小

切断なし,大切断（下腿切断より高位）,小切断（ショパール切断以下）,サイム切断,確認不可

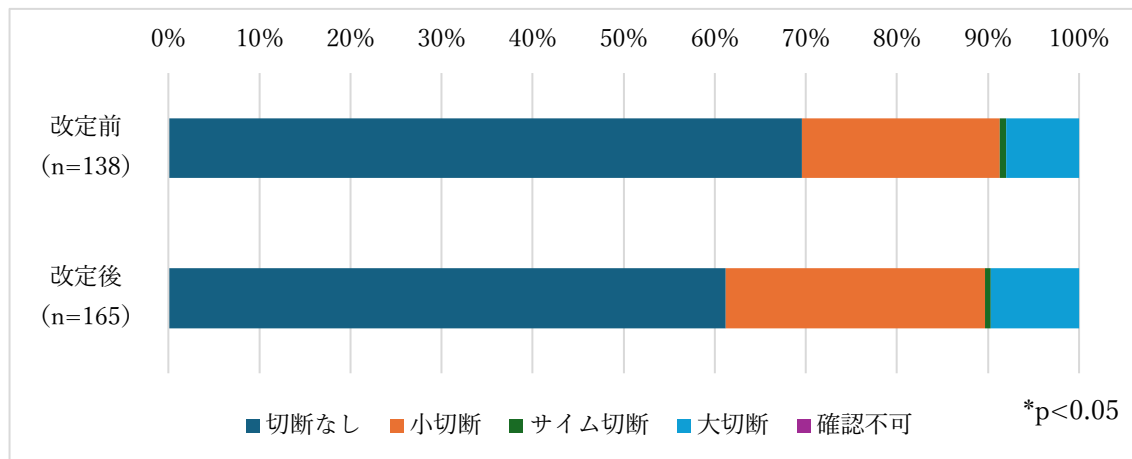


図 21. 切断の部位について

表 27. 切断の部位について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
切断なし	96	69.6%	101	61.2%
小切断（ショパール切断以下）	30	21.7%	47	28.5%
サイム切断	1	0.7%	1	0.6%
大切断（下腿切断より高位）	11	8.0%	16	9.7%
確認不可	0	0.0%	0	0.0%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 切断時期

切断なし,2023～2018 年の何年か,,2017 年以前,確認不可

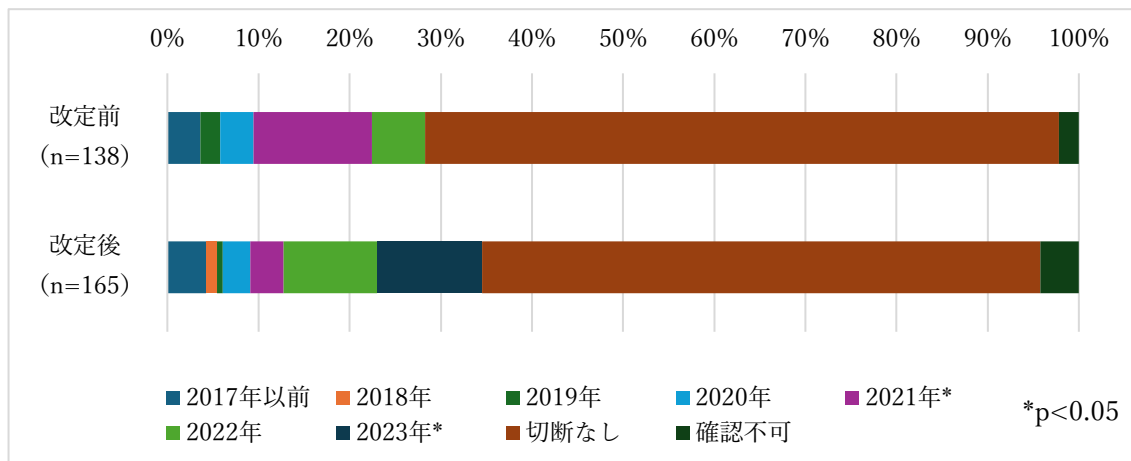


図 22. 切断時期について

表 28. 切断時期について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
2017 年以前	5	3.6%	7	4.2%
2018 年	0	0.0%	2	1.2%
2019 年	3	2.2%	1	0.6%
2020 年	5	3.6%	5	3.0%
2021 年*	18	13.0%	6	3.6%
2022 年	8	5.8%	17	10.3%
2023 年*	0	0.0%	19	11.5%
切断なし	96	69.6%	101	61.2%
確認不可	3	2.2%	7	4.2%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の切断時期は、2021 年が減少、2023 年が増加した。

皮膚の状態について

Q 皮膚トラブル【複数回答可】

なし, 胼胝, 鶏眼, 水泡, 白癬, 確認不可, その他

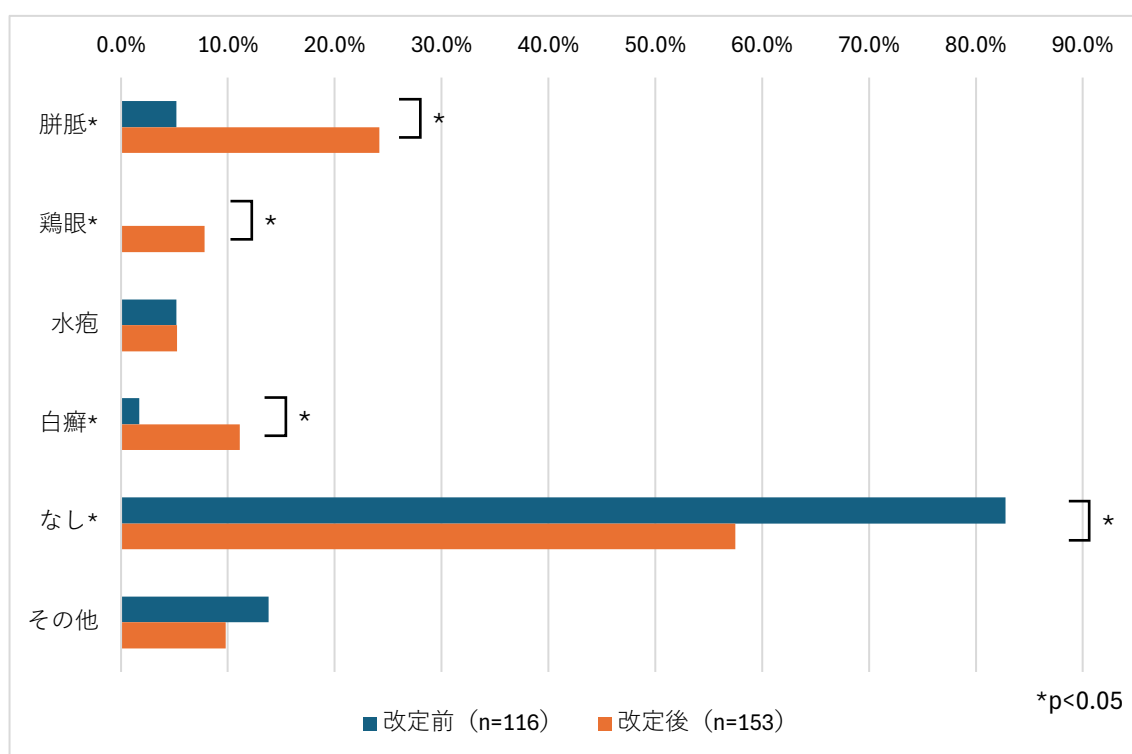


図 23. 皮膚トラブルについて

表 29. 皮膚トラブルについて

	改定前 (n=138)			改定後 (n=165)		
	n	/ 回答数	%	n	/ 回答数	%
胼胝*	6	/ 116	5.2%	37	/ 153	24.2%
鶏眼*	0	/ 116	0.0%	12	/ 153	7.8%
水泡	6	/ 116	5.2%	8	/ 153	5.2%
白癬*	2	/ 116	1.7%	17	/ 153	11.1%
なし*	96	/ 116	82.8%	88	/ 153	57.5%
その他	16	/ 116	13.8%	15	153	9.8%

* p<0.05 改定前後を比較, 複数回答可

改定前と比較して改定後の皮膚トラブルは, 胼胝, 鶏眼, 白癬が増加, なしが減少した。

表 30. その他の皮膚トラブルについて

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
あかぎれ	2 / 116	1.7%	0 / 153	0.0%
陥入爪	0 / 116	0.0%	4 / 153	2.6%
血疱	1 / 116	0.9%	1 / 153	0.7%
術創離開	1 / 116	0.9%	1 / 153	0.7%
皮膚病	1 / 116	0.9%	1 / 153	0.7%
蜂窩織炎	5 / 116	4.3%	3 / 153	2.0%
リンパ浮腫	0 / 116	0.0%	2 / 153	1.3%
褥瘡	2 / 116	1.7%	3 / 153	2.0%
不潔	2 / 116	1.7%	0 / 153	0.0%
その他	2 / 116	1.7%	0 / 153	0.0%

改定前後におけるその他の皮膚トラブルの単純集計を示す.

足部の変形について

Q 足部変形 有無【複数回答可】

なし,外反拇趾,クロートゥー,シャルコー,確認不可

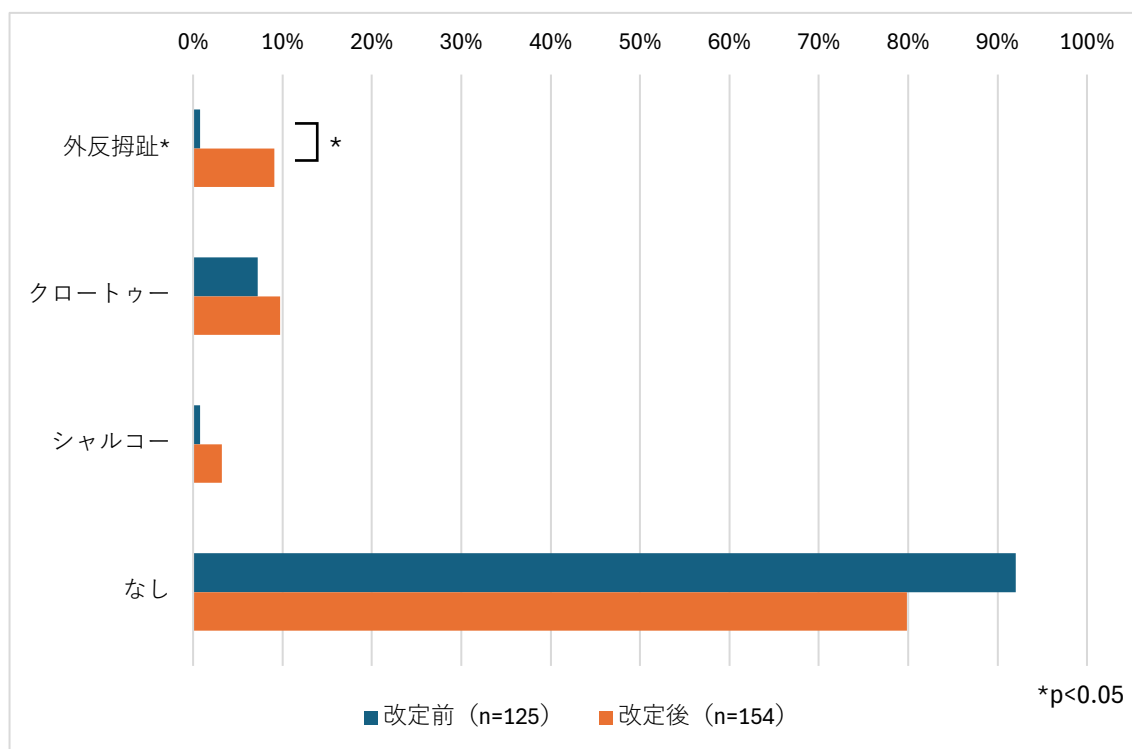


図 24. 足部変形の有無について

表 31. 足部変形の有無について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
外反拇趾*	1 / 125	0.8%	14 / 154	9.1%
クロートゥー	9 / 125	7.2%	15 / 154	9.7%
シャルコー	1 / 125	0.8%	5 / 154	3.2%
なし	115 / 125	92.0%	123 / 154	79.9%

* p<0.05 改定前後を比較, 複数回答あり

改定前と比較して改定後の足部変形は, 外反拇趾が増加した。

超音波による診断について

Q 超音波 頸部 IMT 肥厚 (IMT : Intima Media Thickness)
 ※原則入院時の結果 (治療前の検査結果) 有り,なし,確認不可

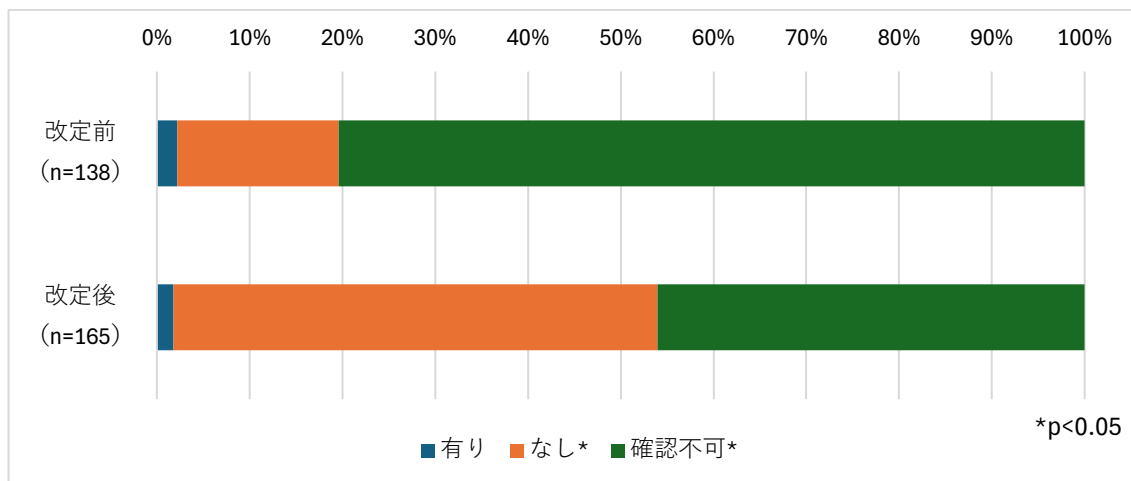


図 25. 超音波による診断 (IMT 肥厚) について

表 32. 超音波による診断 (IMT 肥厚) について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
有り	3	2.2%	3	1.8%
なし*	24	17.4%	86	52.1%
確認不可*	111	80.4%	76	46.1%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の超音波による診断 (IMT 肥厚) は, 診断しない割合が多くなり, 確認不可が少なくなった。

Q 超音波 下肢動脈閉塞

※原則入院時の結果（治療前の検査結果） 有り,なし,確認不可

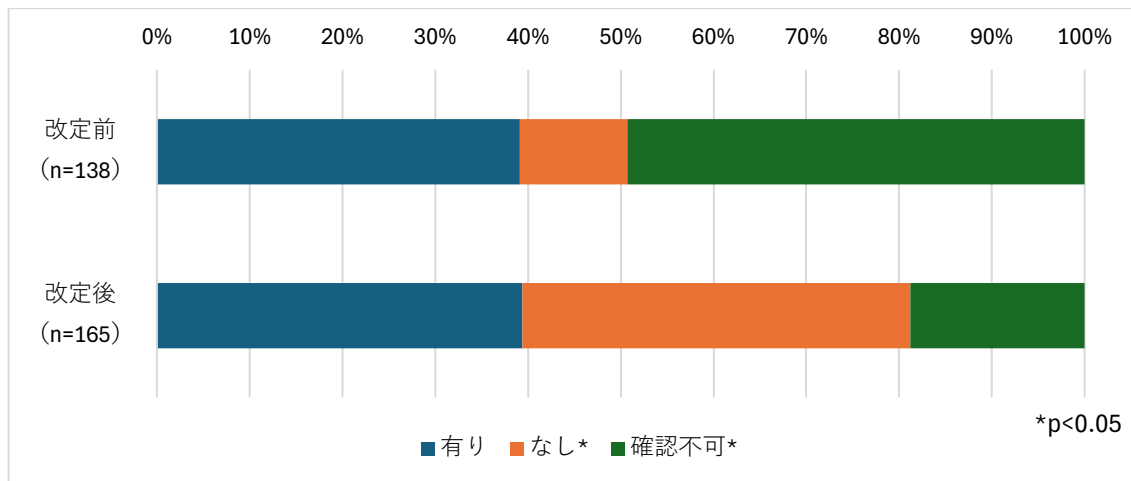


図 26. 超音波による診断（下肢動脈閉塞）について

表 33. 超音波による診断（下肢動脈閉塞）について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
有り	54	39.1%	65	39.4%
なし*	16	11.6%	69	41.8%
確認不可*	68	49.3%	31	18.8%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の超音波による診断（下肢動脈閉塞）は、診断しない割合が多くなり、確認不可が少なくなった。

血行動態について

Q 下肢血行動態（右 ABI） 入院時 or 治療前（ABI：ankle brachial pressure index） ※原則入院時の結果（治療前の検査結果）
Q 下肢血行動態（左 ABI） 入院時 or 治療前（ABI：ankle brachial pressure index） ※原則入院時の結果（治療前の検査結果）
Q 下肢血行動態（右 AP） 入院時 or 治療前（AP：ankle pressure） ※原則入院時の結果（治療前の検査結果）
Q 下肢血行動態（左 AP） 入院時 or 治療前（AP：ankle pressure） ※原則入院時の結果（治療前の検査結果）
Q 下肢血行動態（右 SPP） 入院時 or 治療前（SSP：skin perfusion pressure） ※原則入院時の結果（治療前の検査結果），測定した部位
Q 下肢血行動態（左 SPP） 入院時 or 治療前（SSP：skin perfusion pressure） ※原則入院時の結果（治療前の検査結果），測定した部位

表 34. 下肢血行動態について

改定前（n=138）					改定後（n=165）				
	回答数	mean	±	SD		回答数	mean	±	SD
ABI（右）	103	0.8	±	0.3		102	0.8	±	0.3
ABI（左）	106	0.9	±	0.9		110	0.8	±	0.2
AP（右）	45	116.5	±	37.1		29	113.7	±	38.8
AP（左）	47	111.2	±	38.9		30	120.8	±	30.7
SPP（右）*	48	32.8	±	19.8		80	41.5	±	17.9
SPP（左）	51	37.5	±	18.4		85	40.0	±	19.2

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の血行動態は，SPP（右）が高くなった。

表 35. SPP の測定した部位について

SPP（右）の測定した部位	改定前（n=138）		改定後（n=165）	
	n	%	n	%
足底*	30	21.7%	64	38.8%
足背	12	8.7%	17	10.3%
確認不可*	96	69.6%	84	50.9%
SPP（左）の測定した部位				
足底*	30	21.7%	67	40.6%
足背	14	10.1%	18	10.9%
下腿遠位	1	0.7%	0	0.0%
確認不可*	93	67.4%	80	48.5%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前と比較して改定後の SPP（右）の測定した部位は，足底が増え，確認不可が減少した．SPP（左）の測定した部位は，足底が増え，確認不可が減少した．

薬物療法について

Q 治療内容 血糖降下 注射薬【複数回答可】

インスリン, GLP1, なし, 確認不可

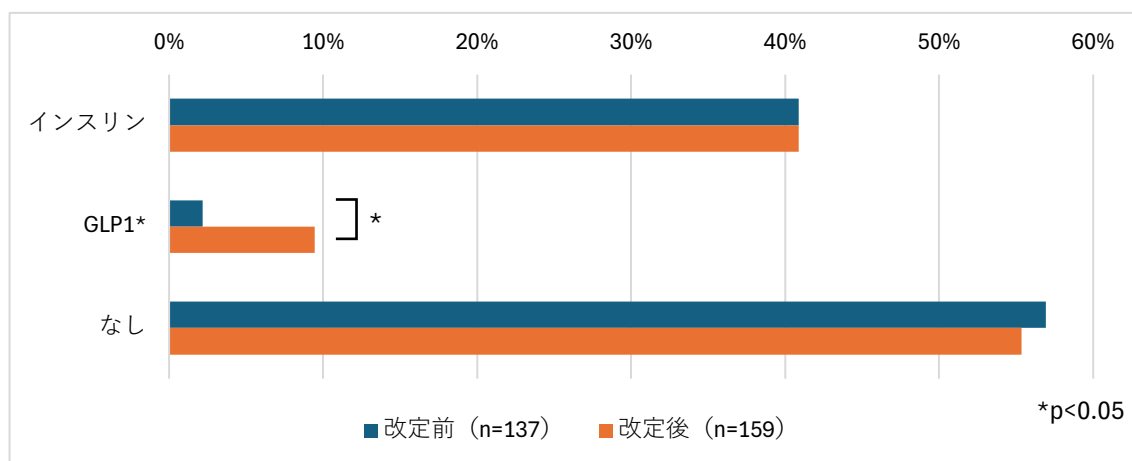


図 27. 血糖降下注射薬について

表 36. 血糖降下注射薬について

	改定前 (n=138)			改定後 (n=165)		
	n	/ 回答数	%	n	/ 回答数	%
インスリン	56	/ 137	40.9%	65	/ 159	40.9%
GLP1*	3	/ 137	2.2%	15	/ 159	9.4%
なし	78	/ 137	56.9%	88	/ 159	55.3%

* p<0.05 改定前後を比較, 複数回答可

改定前と比較して改定後の血糖降下注射薬は, GLP1 が増加した。

Q 治療内容 経口血糖降下薬 有り,なし,確認不可
Q 治療内容 血管拡張剤 有り,なし,確認不可
Q 治療内容 抗血小板薬 有り,なし,確認不可
Q 治療内容 抗生剤 有り,なし,確認不可
Q 治療内容 降圧薬 有り,なし,確認不可

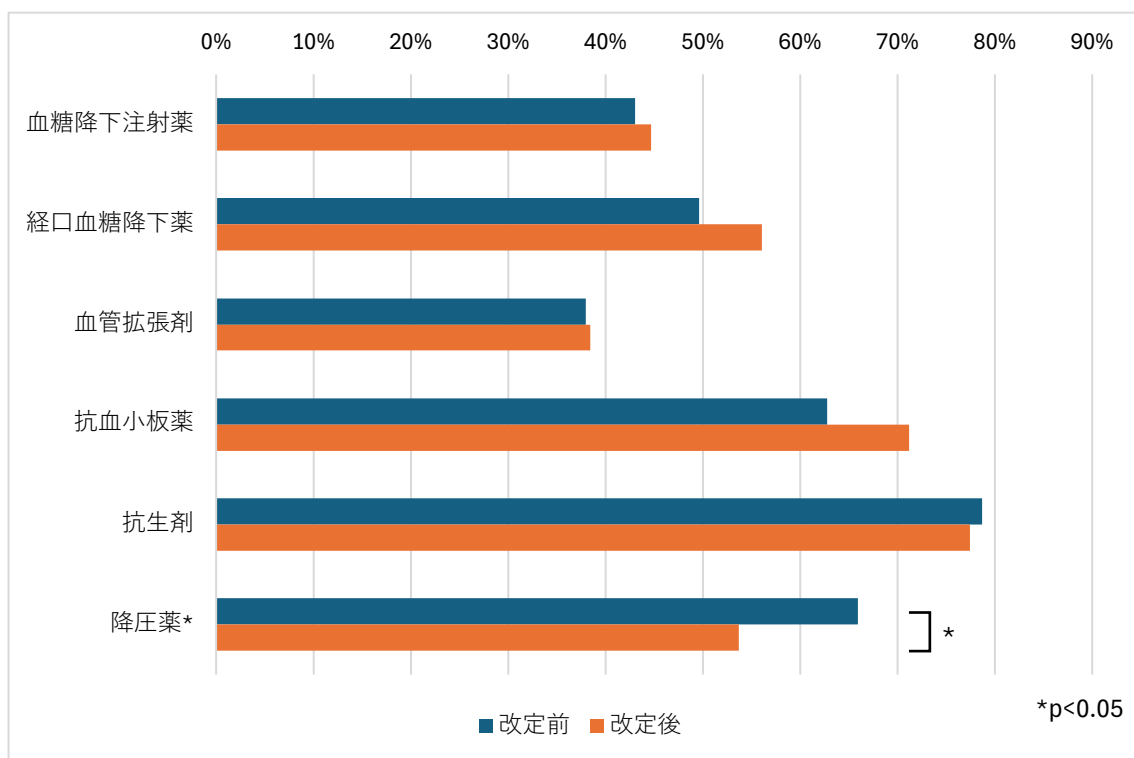


図 28. 薬物療法について
改定前、改定後の回答数は表 37 を参照

表 37. 薬物療法について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
血糖降下注射薬	59 / 137	43.1%	71 / 159	44.7%
経口血糖降下薬	68 / 137	49.6%	92 / 164	56.1%
血管拡張剤	52 / 137	38.0%	63 / 164	38.4%
抗血小板薬	86 / 137	62.8%	116 / 163	71.2%
抗生剤	107 / 136	78.7%	127 / 164	77.4%
降圧薬*	91 / 138	65.9%	87 / 162	53.7%

* $p<0.05$ 改定前後を比較, 複数回答可

改定前と比較して改定後の薬物療法は, 降圧薬が減少した.

Q その他【任意】 自由記載

表 38. その他の薬剤について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
ステロイド, フェントステープ	1	0.7%	0	0.0%
フェントス	0	0.0%	1	0.6%
プレドニン	1	0.7%	0	0.0%
ヘパリン	1	0.7%	0	0.0%
チラージン	1	0.7%	0	0.0%
なし	134	97.1%	164	99.4%

改定前後におけるその他の薬剤の単純集計を示す.

1 症例に複数の薬剤を使用している者は, 分けずにそのまま記載.

入院時の治療について

Q 治療内容（入院時） 血行再建の有無【複数回答可】※LDL-A は含まない
なし,血管内治療,外科的血行再建術,確認不可

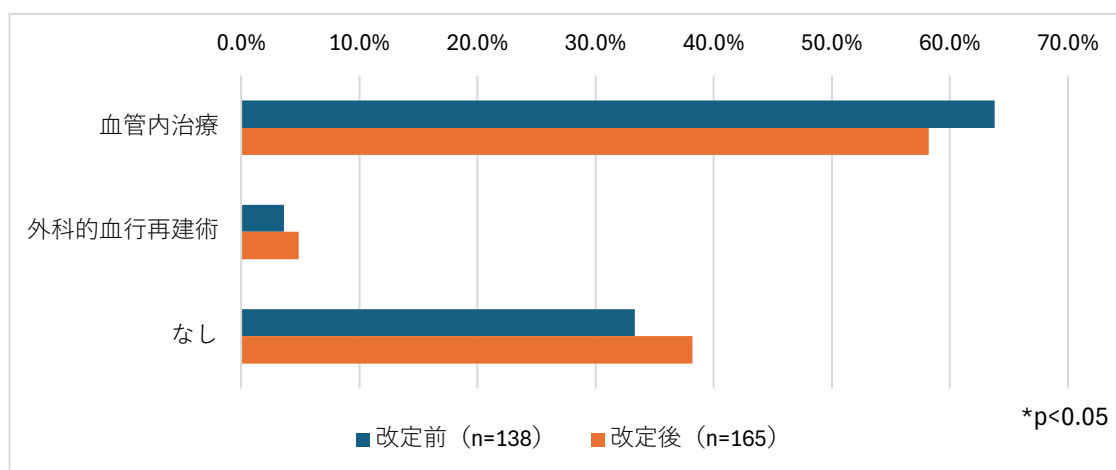


図 29. 血行再建の有無について

表 39. 血行再建の有無について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
血管内治療	88 / 138	63.8%	96 / 165	58.2%
外科的血行再建術	5 / 138	3.6%	8 / 165	4.8%
なし	46 / 138	33.3%	63 / 165	38.2%

* p<0.05 改定前後を比較, 複数回答可

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 治療内容（入院時） 創傷治療【複数回答可】（PRP：Platelet-Rich-Plasm 治療法）
 保存的治療,デブリ,陰圧閉鎖療法,植皮,皮弁,PRP,確認不可

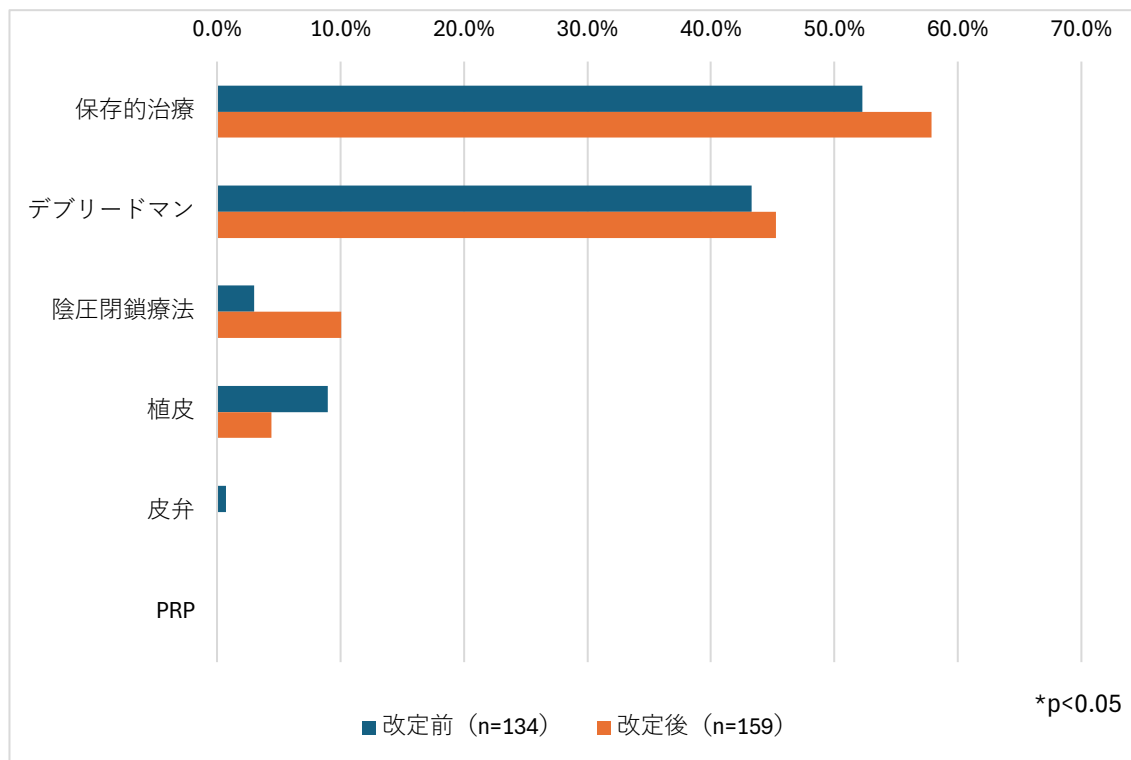


図 30. 創傷治療について

表 40. 創傷治療について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
保存的治療	70 / 134	52.2%	92 / 159	57.9%
デブリードマン	58 / 134	43.3%	72 / 159	45.3%
陰圧閉鎖療法	4 / 134	3.0%	16 / 159	10.1%
植皮	12 / 134	9.0%	7 / 159	4.4%
皮弁	1 / 134	0.7%	0 / 159	0.0%
PRP	0 / 134	0.0%	0 / 159	0.0%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 血行再建・創傷治療内容（入院時） 小切断【複数回答可】

※入院時に行われた場合も入力 なし,足趾,前足部,確認不可

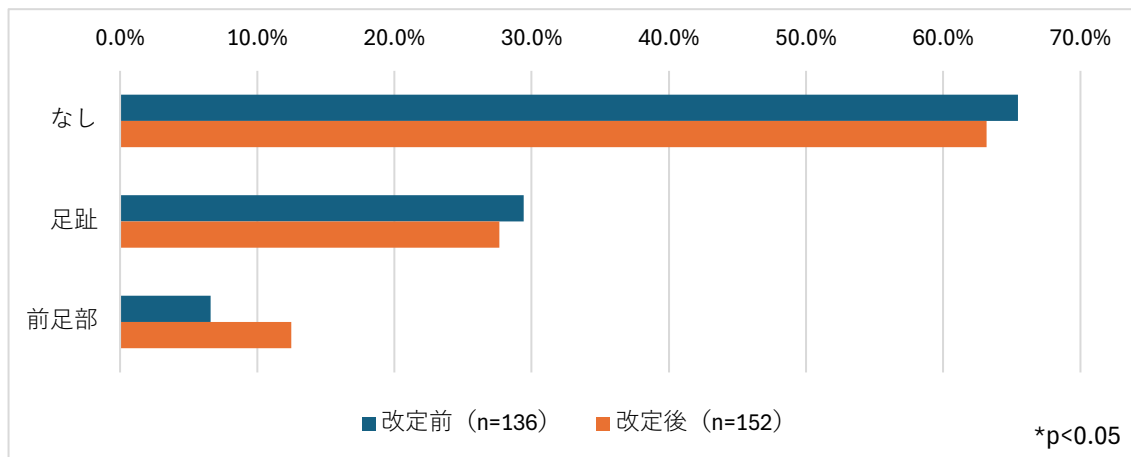


図 31. 小切断について

表 41. 小切断について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
なし	89 / 136	65.4%	96 / 152	63.2%
足趾	40 / 136	29.4%	42 / 152	27.6%
前足部	9 / 136	6.6%	19 / 152	12.5%

* p<0.05 改定前後を比較, 複数回答可

改定前と比較して改定後の入院の小切断は, 確認不可が増加した.

Q 血行再建・創傷治療内容（入院時） 予防的手術【複数回答可】
なし,アキレス腱延長術,関節形成術,確認不可

表 42. 予防的手術について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
なし*	138 / 138	100%	158 / 161	98.1%
アキレス腱延長術	0 / 138	0.0%	3 / 161	1.9%
関節形成術	0 / 138	0.0%	0 / 161	0.0%

* p<0.05 改定前後を比較, 複数回答可

改定前と比較して改定後の予防的手術は, なしが減少した.

下肢の筋力（入院時）について

Q 膝伸展筋力 (kgf) 右 (入院時) ※ 小数点以下 1 桁まで入力
Q 膝伸展筋力 (kgf) 左 (入院時) ※ 小数点以下 1 桁まで入力

表 43. 膝伸展筋力 kgf（入院時）について

	改定前 (n=138)				改定後 (n=165)			
	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
Kgf (右)	0		±		50	14.0	±	6.0
Kgf (左)	0		±		49	15.3	±	16.5

* p<0.05 改定前後を比較

改定前の n 数が少数であり，分析が困難であった．

Q 膝伸展筋力 MMT 右 (入院時) (MMT : Manual Muscle Test) 0～5 のどれか,確認不可
Q 膝伸展筋力 MMT 左 (入院時) (MMT : Manual Muscle Test) 0～5 のどれか,確認不可

表 44. 膝伸展筋力 MMT（入院時）について

	改定前 (n=138)				改定後 (n=165)			
	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
MMT (右)	122	4.1	±	0.8	140	4.1	±	0.9
MMT (左)	121	4.2	±	0.8	140	4.1	±	0.9

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった．

身体機能評価および ADL 評価（入院時）について

Q SPPB（入院時）（SPPB：Short Physical Performance Battery）
--

表 45. SPPB（入院時）について

	改定前（n=138）				改定後（n=165）			
	回答数	Mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
SPPB（入院時）	0		±		2	0.0	±	0.0

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後の n 数が各群ともに少数であり，分析が困難であった．

Q 歩行能力（入院時）

伝い歩き可は「補助具使用下歩行可」介助歩行のみ可は「歩行不可」を選択

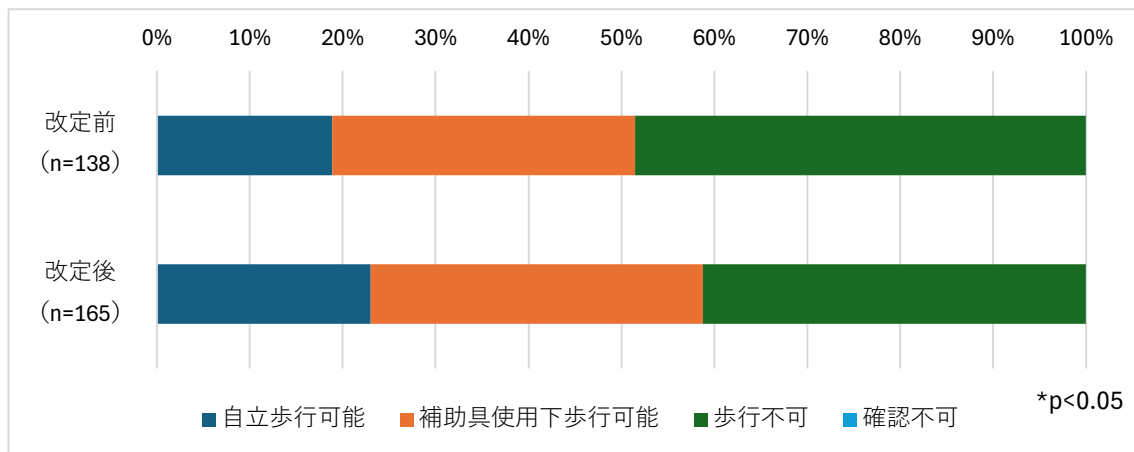


図 32. 小切断に歩行能力（入院時）について

表 46. 歩行能力（入院時）について

歩行能力（入院時）	改定前（n=138）		改定後（n=165）	
	n	%	n	%
自立歩行可能	26	18.8%	38	23.0%
補助具使用下歩行可能	45	32.6%	59	35.8%
歩行不可	67	48.6%	68	41.2%
確認不可	0	0.0%	0	0.0%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 歩行速度（入院時）

※ 小数点以下 2 桁まで入力

表 47. 歩行速度（入院時）について

	改定前（n=138）				改定後（n=165）			
	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
歩行速度（入院時）	1	12.5	±		0		±	

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後の n 数が各群ともに少数であり，分析が困難であった．

Q 歩行能力 FIM（入院時）（FIM：Functional Independence Measure）
Q ADL FIM 合計点（入院時）（ADL：Activities of Daily Living）
Q ADL BI 合計点（入院時）（BI：Barthel Index）

表 48. ADL（入院時）について

改定前（n=138）					改定後（n=165）			
ADL（入院時）	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
FIM 歩行能力小計点	78	3.2	±	2.4	116	3.7	±	2.2
FIM 合計点	7	74.1	±	33.2	52	88.7	±	26.0
BI 合計点	105	53.5	±	30.0	82	58.7	±	30.7

改定前後で有意な差は認められなかった。

理学療法の内容について

Q 理学療法内容 レジスタンス運動
有り,なし,確認不可
Q 理学療法内容 ストレッチ（関節可動域練習）
有り,なし,確認不可
Q 理学療法内容 歩行練習
有り,なし,確認不可
Q 理学療法内容 ADL 練習
有り,なし,確認不可
Q 理学療法内容 バランス練習
有り,なし,確認不可

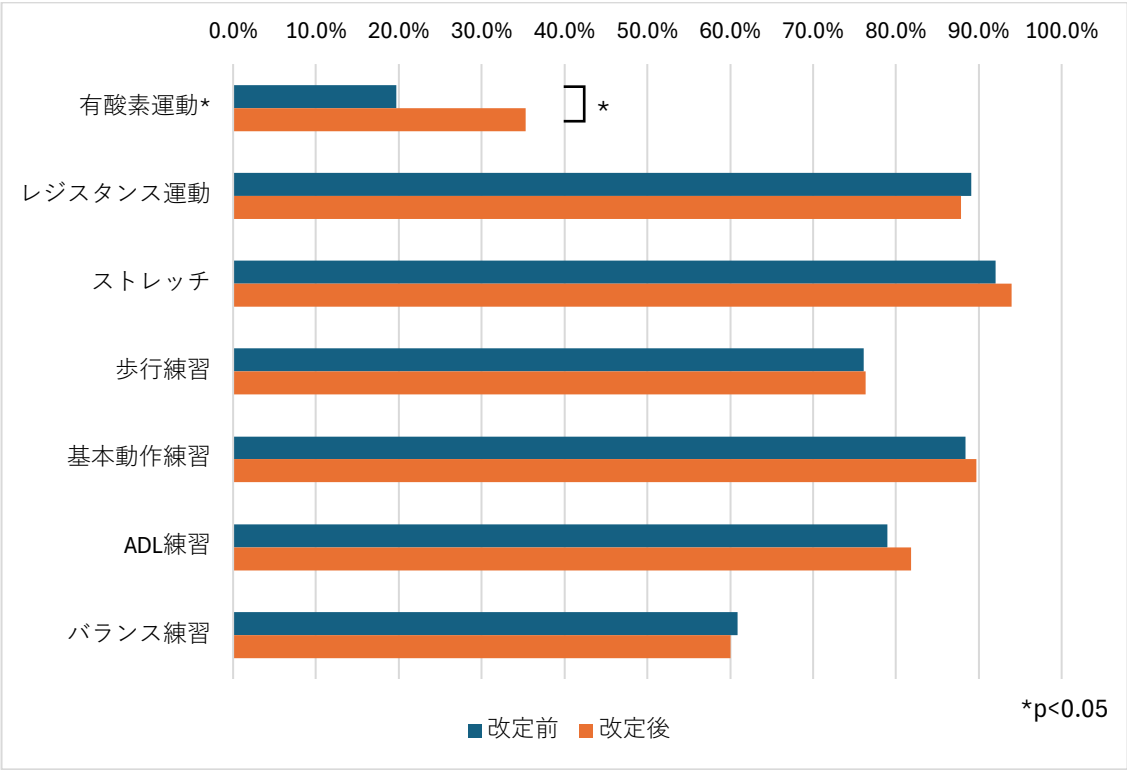


図 33. 理学療法の内容（基本的な）について
改定前、改定後の回答数は表 49 を参照

表 49. 理学療法の内容（基本的な）について

	改定前（n=138）		改定後（n=165）	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
有酸素運動*	27 / 137	19.7%	54 / 153	35.3%
レジスタンス運動	123 / 138	89.1%	145 / 165	87.9%
ストレッチ	127 / 138	92.0%	155 / 165	93.9%
歩行練習	105 / 138	76.1%	126 / 165	76.4%
基本動作練習	122 / 138	88.4%	148 / 165	89.7%
ADL 練習	109 / 138	79.0%	135 / 165	81.8%
バランス練習	84 / 138	60.9%	99 / 165	60.0%

* p<0.05 改定前後を比較，複数回答可

改定前と比較して改定後の理学療法の内容は，有酸素運動が増加した。

Q 理学療法内容 免荷歩行練習 有り,なし,確認不可
Q 理学療法内容 装具・フットウェア作製 有り,なし,確認不可
Q 理学療法内容 義足作製・装着 有り,なし,確認不可
Q 理学療法内容 歩行補助具使用 有り,なし,確認不可
Q 理学療法内容 物理療法 有り,なし,確認不可

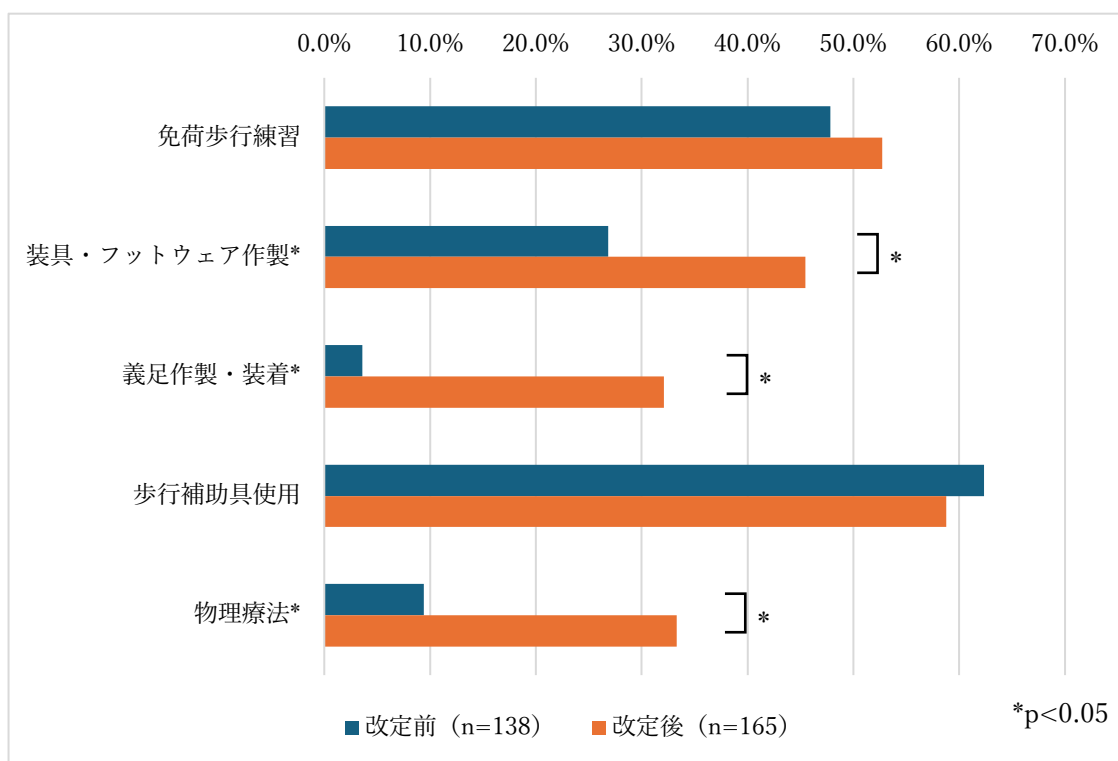


図 34. 理学療法の内容（足病変に対する）について

表 50. 理学療法の内容（足病変に対する）について

	改定前（n=138）		改定後（n=165）	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
免荷歩行練習	66 / 138	47.8%	87 / 165	52.7%
装具・フットウェア作製*	37 / 138	26.8%	75 / 165	45.5%
義足作製・装着*	5 / 138	3.6%	53 / 165	32.1%
歩行補助具使用	86 / 138	62.3%	97 / 165	58.8%
物理療法*	13 / 138	9.4%	55 / 165	33.3%

* $p<0.05$ 改定前後を比較，複数回答可

改定前と比較して改定後の理学療法の内容は，装具・フットウェア作製，義足作製・装着，物理療法が増加した。

身体機能評価および ADL 評価（退院時）について

Q SPPB（退院時）（SPPB：Short Physical Performance Battery）
--

表 51. SPPB（退院時）について

	改定前（n=138）				改定後（n=165）			
	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
SPPB（退院時）	0		±		2	0.0	±	0.0

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後の n 数が各群ともに少数であり，分析が困難であった．

Q 歩行能力（退院時）

伝い歩き可は「補助具使用下歩行可」を選択，介助歩行のみ可は「歩行不可」を選択

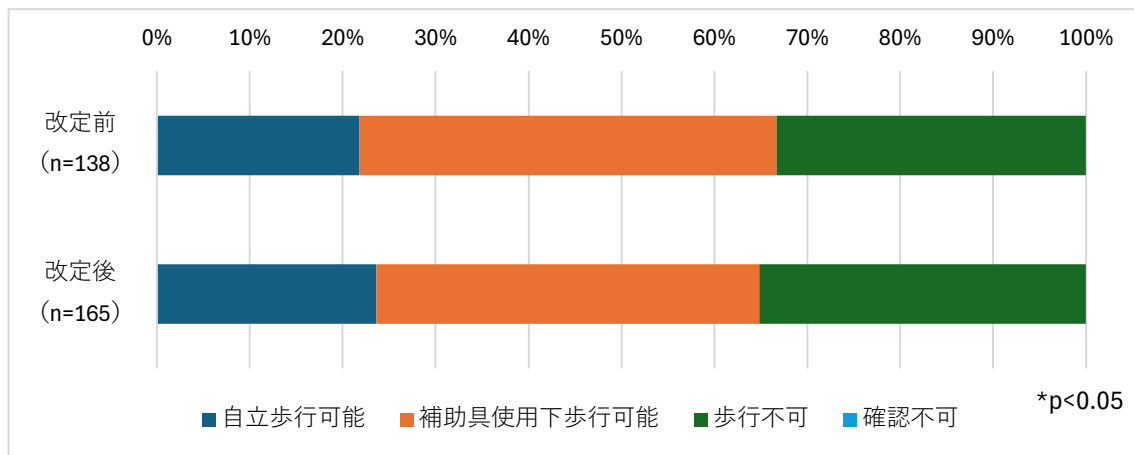


図 35. 歩行能力（退院時）について

表 52. 歩行能力（退院時）について

歩行能力（退院時）	改定前（n=138）		改定後（n=165）	
	n	%	n	%
自立歩行可能	30	21.7%	39	23.6%
補助具使用下歩行可能	62	44.9%	68	41.2%
歩行不可	46	33.3%	58	35.2%
確認不可	0	0.0%	0	0.0%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 歩行速度（退院時）
※ 小数点以下 2 桁まで入力

表 53. 歩行速度（退院時）について

	改定前（n=138）				改定後（n=165）			
	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
歩行速度（退院時）	0		±		2	2.9	±	3.0

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後の n 数が各群ともに少数であり，分析が困難であった．

Q 歩行能力 FIM （退院時）（FIM：Functional Independence Measure）

Q ADL FIM 合計点（退院時）（ADL：Activities of Daily Living）

Q ADL BI 合計点（退院時）（BI：Barthel Index）

表 54. ADL（退院時）について

ADL（退院時）	改定前（n=138）				改定後（n=165）			
	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
FIM 歩行能力小計点	79	4.1	±	2.5	111	4.0	±	2.2
FIM 合計点	6	88.5	±	47.4	60	89.7	±	32.3
BI 合計点	107	62.0	±	34.4	76	60.4	±	36.3

改定前後で有意な差は認められなかった．

治療の転帰について

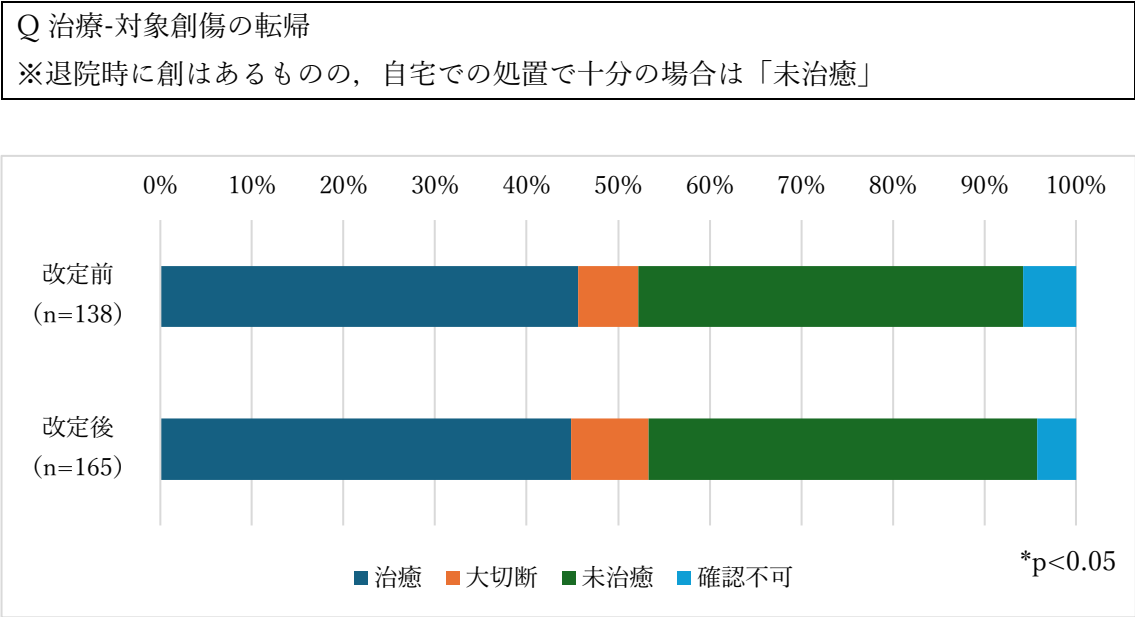


図 36. 治療対象創傷の転帰について

表 55. 治療対象創傷の転帰について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
治癒	63	45.7%	74	44.8%
大切断	9	6.5%	14	8.5%
未治癒	58	42.0%	70	42.4%
確認不可	8	5.8%	7	4.2%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった.

退院先について

Q 退院先

自宅,回復期老健・特養,療養・地域包括,死亡退院,確認不可

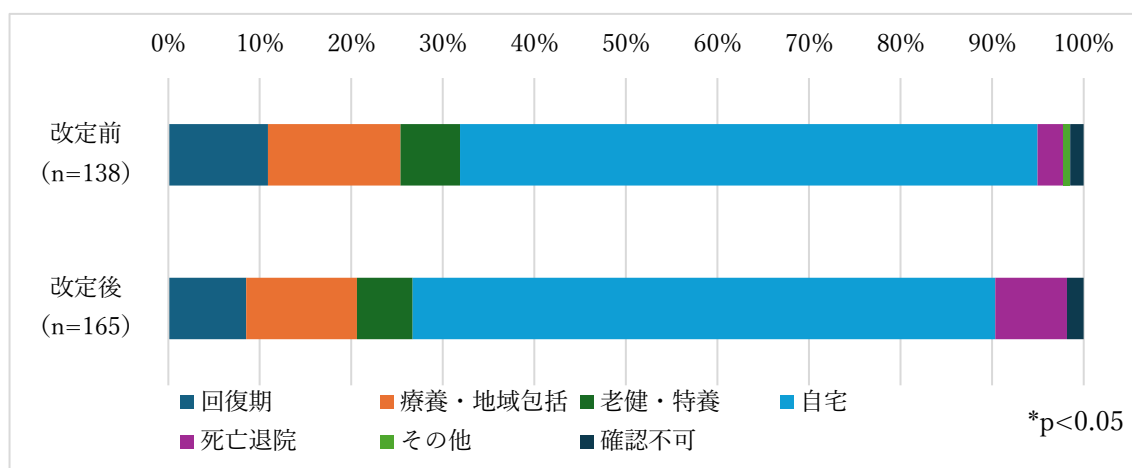


図 37. 退院先について

表 56. 退院先について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
回復期	15	10.9%	14	8.5%
療養・地域包括	20	14.5%	20	12.1%
老健・特養	9	6.5%	10	6.1%
自宅	87	63.0%	105	63.6%
死亡退院	4	2.9%	13	7.9%
その他	1	0.7%	0	0.0%
確認不可	2	1.4%	3	1.8%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

入院期間について

Q 入院期間
入院日数を回答

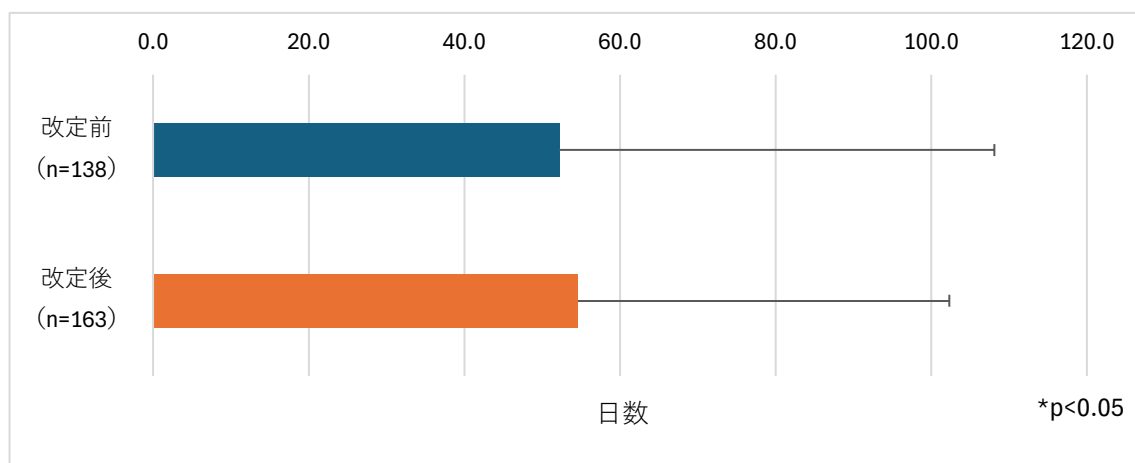


図 38. 入院期間について

表 57. 入院期間について

	改定前 (n=138)				改定後 (n=165)			
	回答数	mean	±	SD	回答数	mean	±	SD
今回の入院日数	138	52.2	±	55.9	163	54.6	±	47.7

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 入院期間の長期化（60 日以上の入院）

有り,なし,確認不可

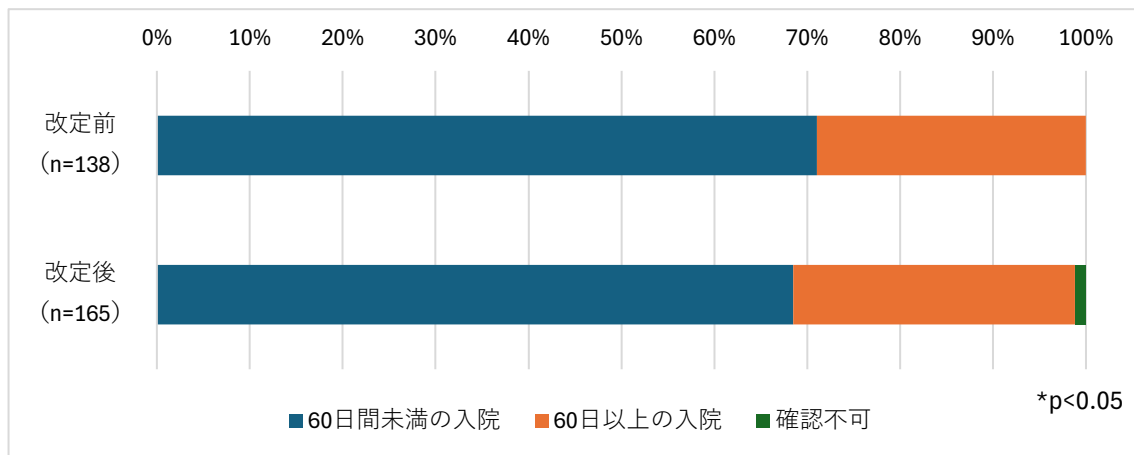


図 39. 入院期間の長期化（60 日以上の入院）について

表 58. 入院期間の長期化（60 日以上の入院）について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
60 日間未満の入院	98	71.0%	113	68.5%
60 日以上の入院	40	29.0%	50	30.3%
確認不可	0	0.0%	2	1.2%

* p<0.05 改定前後を比較

改定前後で有意な差は認められなかった。

Q 入院期間長期化の理由【複数回答可】

長期化（60 日以上）なし,創傷治癒の遷延,感染の併発,
血行再建の問題,社会的理由,経済的理由,確認不可,その他

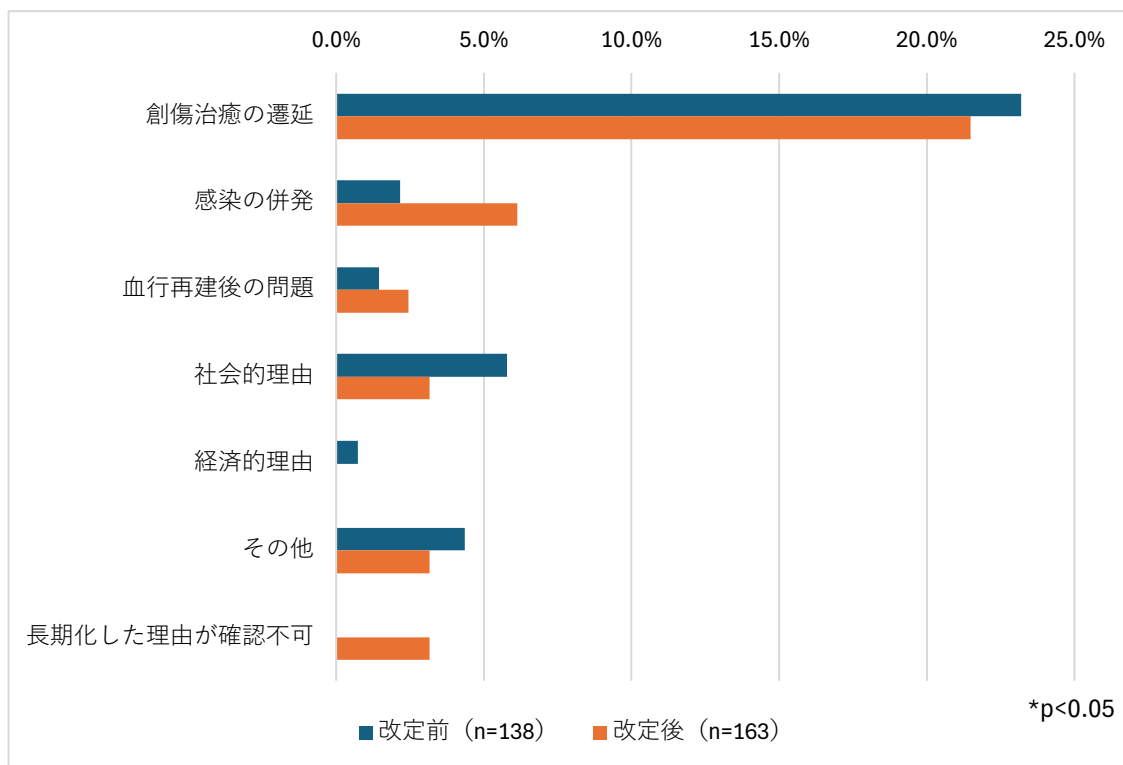


図 40. 入院期間の長期化（60 日以上の入院）の理由について

表 59. 入院期間の長期化（60 日以上の入院）の理由について

	改定前 (n=138)			改定後 (n=165)		
	n	/ 回答数	%	n	/ 回答数	%
創傷治癒の遷延	32	/ 138	23.2%	35	/ 163	21.5%
感染の併発	3	/ 138	2.2%	10	/ 163	6.1%
血行再建後の問題	2	/ 138	1.4%	4	/ 163	2.5%
社会的理由	8	/ 138	5.8%	5	/ 163	3.1%
経済的理由	1	/ 138	0.7%	0	/ 163	0.0%
その他	6	/ 138	4.3%	5	/ 163	3.1%
長期化した理由が確認不可	0	/ 138	0.0%	5	/ 163	3.1%

* p<0.05 改定前後を比較, 複数回答可

改定前後で有意な差は認められなかった。

表 60. その他の入院期間の長期化（60 日以上の入院）の理由について

	改定前（n=138）		改定後（n=165）	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
シャントの狭窄	1 / 138	0.7%	0 / 163	0.0%
追加切断	1 / 138	0.7%	0 / 163	0.0%
全身状態不良	1 / 138	0.7%	2 / 163	1.2%
肺炎	1 / 138	0.7%	1 / 163	0.6%
ADL 上の問題	2 / 138	1.4%	2 / 163	1.2%

改定前後におけるその他の入院期間長期化の理由の単純集計を示す.

退院後の再入院について

Q 退院後の再入院

有り,なし,確認不可

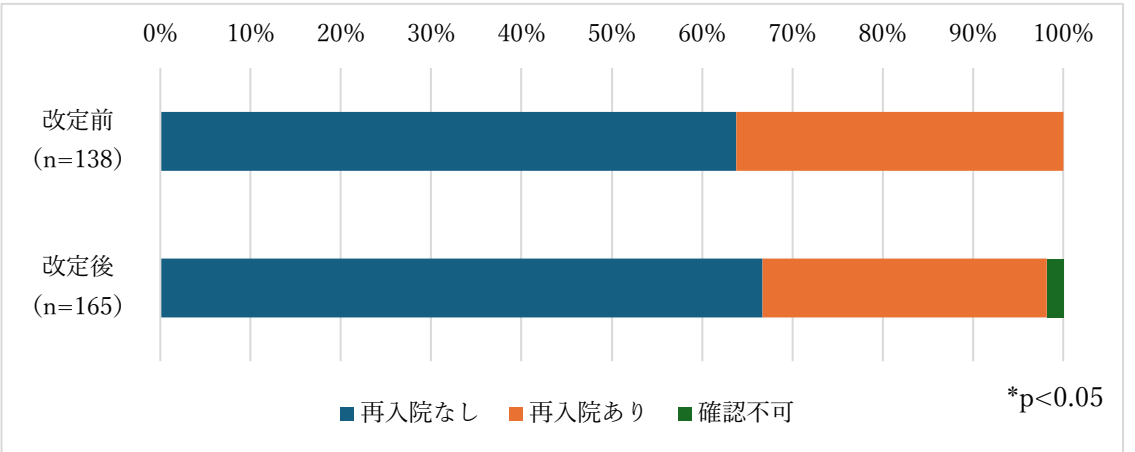


図 41. 退院後の再入院について

表 61. 退院後の再入院について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n	%	n	%
再入院なし	88	63.8%	110	66.7%
再入院あり	50	36.2%	52	31.5%
確認不可	0	0.0%	3	1.8%

改定前後で有意な差は認められなかった.

Q 退院後の再入院の理由【複数回答可】

なし,潰瘍形成・増悪,下肢虚血の悪化,全身状態の悪化,確認不可,その他

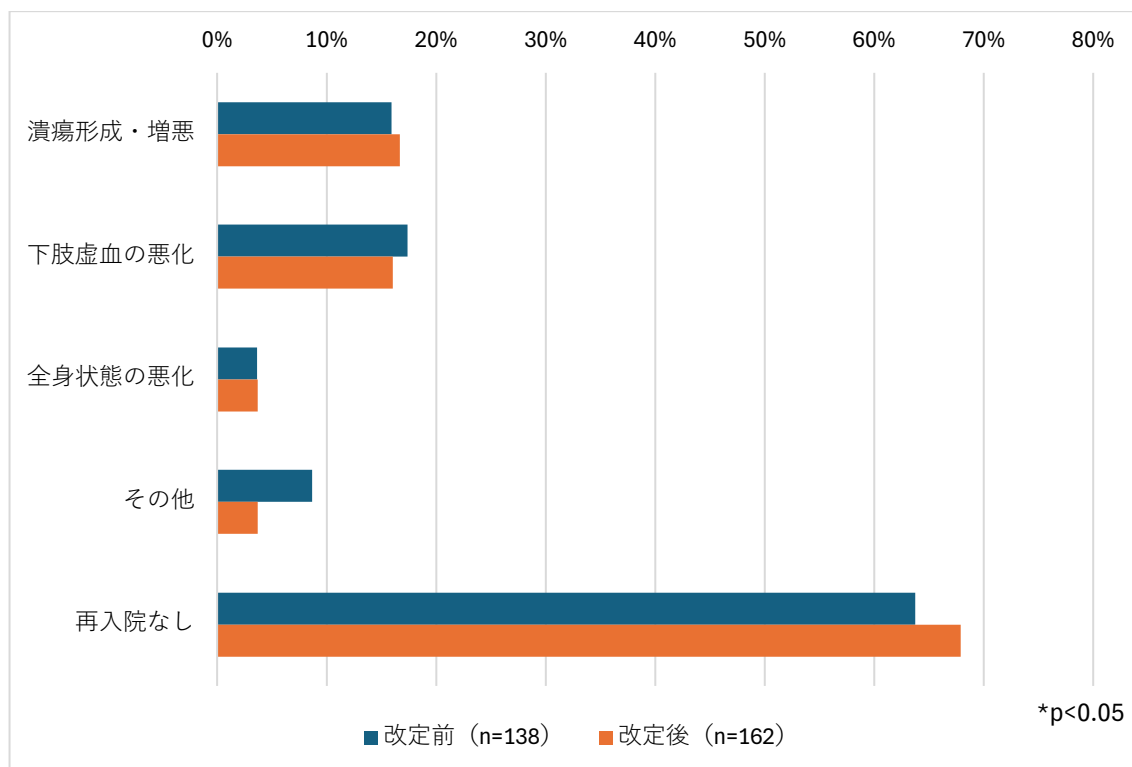


図 42. 退院後の再入院の理由について

表 62. 退院後の再入院の理由について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
潰瘍形成・増悪	22 / 138	15.9%	27 / 162	16.7%
下肢虚血の悪化	24 / 138	17.4%	26 / 162	16.0%
全身状態の悪化	5 / 138	3.6%	6 / 162	3.7%
その他	12 / 138	8.7%	6 / 162	3.7%
再入院なし	88 / 138	63.8%	110 / 162	67.9%

* p<0.05 改定前後を比較, 複数回答可

改定前後で有意な差は認められなかった。

表 63. その他の退院後の再入院の理由について

	改定前 (n=138)		改定後 (n=165)	
	n / 回答数	%	n / 回答数	%
AS に AVR	1 / 138	0.7%	0 / 162	0.0%
感染	1 / 138	0.7%	1 / 162	0.6%
誤嚥性肺炎	1 / 138	0.7%	0 / 162	0.0%
社会的理由	0 / 138	0.0%	1 / 162	0.6%
腎機能悪化	0 / 138	0.0%	1 / 162	0.6%
腎不全	2 / 138	1.4%	0 / 162	0.0%
精神疾患	1 / 138	0.7%	0 / 162	0.0%
切断	0 / 138	0.0%	1 / 162	0.6%
全身状態の悪化, 尿路感染	1 / 138	0.7%	0 / 162	0.0%
創傷	0 / 138	0.0%	1 / 162	0.6%
対側の結構再建	1 / 138	0.7%	0 / 162	0.0%
転倒・骨折	1 / 138	0.7%	0 / 162	0.0%
尿路感染	1 / 138	0.7%	0 / 162	0.0%
疼痛コントロール不良	1 / 138	0.7%	0 / 162	0.0%
不明	0 / 138	0.0%	22 / 162	13.6%

改定前後におけるその他の退院後の再入院の理由の単純集計を示す.

1 症例に複数の理由があるものは, 分けずにそのまま記載.